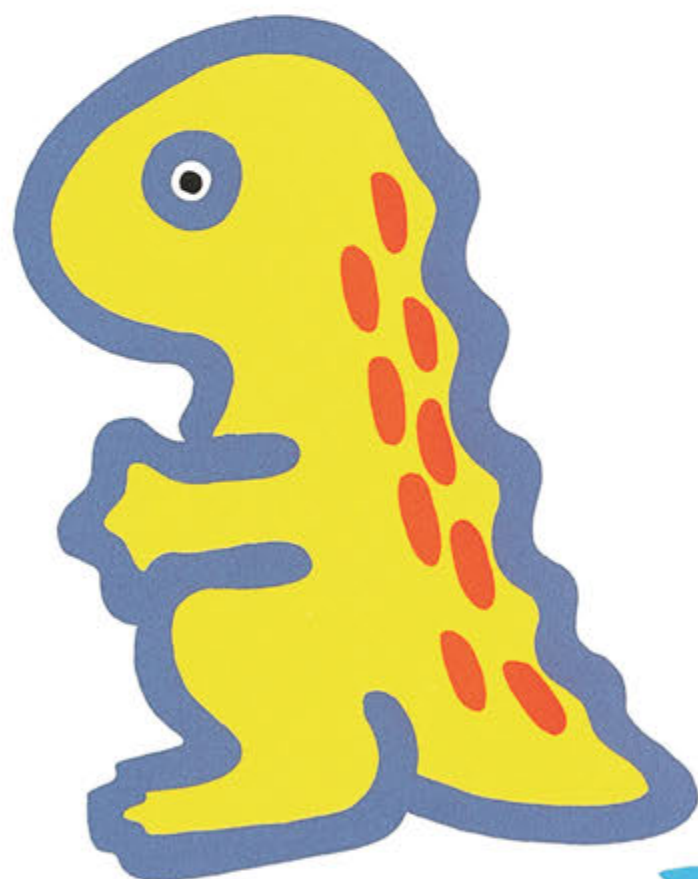


トレーニング ペーパー®

小学6年 国語

《見本》



教育社

4月

も く じ

今月のトレーニングペーパー.....	2
＜読み物＞ 12人の目撃者 ^{もくげき} その1	4
＜ひとやすみ＞ クロスワードパズル	44
＜トレペ図書館＞ 「大きな森の小さな家」	56

文章の読み取り方

第 1 日 登場人物をつかむ.....	10
---------------------	----

物語／赤い実はじけた

* 漢字練習シート ① * 洗映染郷胸忘姿去里張 *	14
第 2 日 漢字の学習 ①	20
* 漢字練習シート ② * 翌展異朗奏口預願曲 *	24
第 3 日 漢字の学習 ②	28
第 4 日 大切な言葉の学習.....	32
第 5 日 登場人物の気持ちを読み取る ①	36
第 6 日 登場人物の気持ちを読み取る ②	40

表現・作文

* 漢字練習シート ③ * 担巻処増備 *	46
第 7 日 漢字の学習 ③	50
第 8 日 作文の組み立てを考える.....	52

言葉

第 9 日 和語・漢語・外来語.....	58
----------------------	----

実力をつけよう

第 10 日 実力アップテスト ①②	62
--------------------------	----

4月のまとめ／テスト

第 11 日 赤い実はじけた ①②	66
第 12 日 4月に学習した漢字.....	70



まだまだこんな学習もあるゾ

毎月ではないけれど、次の二つの学習もあるよ。



表現・作文

6年生は、最後の卒業文集に向けて、表現や作文の練習をしていこう。まず今月は、「作文の組み立てを考える」トレーニングからだ。



言葉

君は、日本語に興味があるかな。今月は、「和語・漢語・外来語」についてだよ。

こんな楽しいページもあるよ。

読み物 12人の^{もくげきしや}目撃者

作者自身が見たあれとは、いったい何なのだろう？

次々とされる証言によって、正体は明らかになるのだろうか。

ひとやすみ

学習のあいまにちょっと息をぬいてひとやすみ。

クロスワードパズルやもの知り博士になれるコラムがあるよ。

トレペ図書館

毎月、いろいろな本をしょうかいしよう。ぜひ、読んでみてね。

君が読書を好きになってくれるといいな。



今月のトレーニングペーパー

読み取りの学習では

★ 文章の読み取り方

物語や説明文を読み取るうえで大切なことをテーマを決めて学習していく。今月は、「登場人物をつかむ」トレーニングをしよう。

★ 物語「赤い実はじけた」

「赤い実がはじける」って、どういうことだと思う？

登場人物の気持ちを読み取っていきこう。読み取りのトレーニングの前に、大切な言葉の学習をしておけば、スムーズに読み取っていけるね。

★ 実力アップテスト

今月の学習内容にあったテストをやるよ。これで、応用力をつけよう。

★ まとめのテスト

今月のしめくりに、読み取りのトレーニングで学習したことが身についているか、テストで力をためそう。

漢字の学習では

● 漢字練習シート

ここには、漢字に関する情報が必要なだけ入っている。ここで、ていねいにじっくり漢字とじゅく語を練習しておこう。

● 漢字の学習

漢字の読みや書きをいろいろな形でトレーニングする。時間のない人は、漢字の読みと書きのトレーニングだけをやればいいよ。

● 漢字のテスト

今月学習した漢字のまとめのテストだ。

12人の目撃者

その1 作者自身の証言！

佐野美津男



いったい、あれは、なんだったのか、いまだにわけがわからない。

だけどとにかく、わたしは見たのだ。

確実にわたしは見たのだけれど、わたしひとりが、あれを見た、あれの目撃者だ、と主張したところで、多くの人は信じてはくれないだろうと思う。それもしかたのないところだ。

なにしろ世の中のほとんどの人は、ごく普通に生きている。そしてそれは、それほど悪いことではない。わたしにしたところで、まああ文学者といわれる身だから、あんまりありきたりではないけれど、とりたてて変わった生きかたをしているわけではない。

食うものも、一日に三度で、朝食と夜食に米飯、昼は

たいていラーメンのようなめん類である。夜は、めしの前にビールを二、三本のむけれど、これだって多くの人がやっていることだろう。

わたしの家をおとずれる人のなかには、「ずいぶん、たくさん本がありますね。」

という人がいるけれど、これだって本棚が十本ほどあるだけで、文学者の蔵書としてにはけっして多いほうではない。普通のサラリーマンの家庭よりは、いくぶん多いといった程度であろう。

家だってプレハブ住宅の二階建てだから、ありきたりである。ただしわたしは、たたみというものがきらいなので、いわゆる和室というへやはない。

一階が十二じょう分の広さのリビングルームと、六じ

よう分の広さのダイニングキッチン。そしてバス、トイレ、洗面所。

二階に十じょう分の洋間と六じょう分の洋間との二室があり、広いほうがわたしの書斎、つまり、現在こうして原稿を書いているへやである。せまいほうが寝室。二階にもトイレと洗面所があるが、これは、あまり健康なほうではない妻のためにつくったものだ。

そう、家族はわたしと妻のふたりだけ。これだって世間にはいくらかも子どものいない夫婦はいるわけで、特別に変わっているとはいえないだろう。

あえて、よそさまとは変わっているところをさがすのであれば、庭で二頭の犬を飼っていることぐらいかもしれない。一頭なら普通だが、二頭となると、あまり飼っている家は多くないだろう。

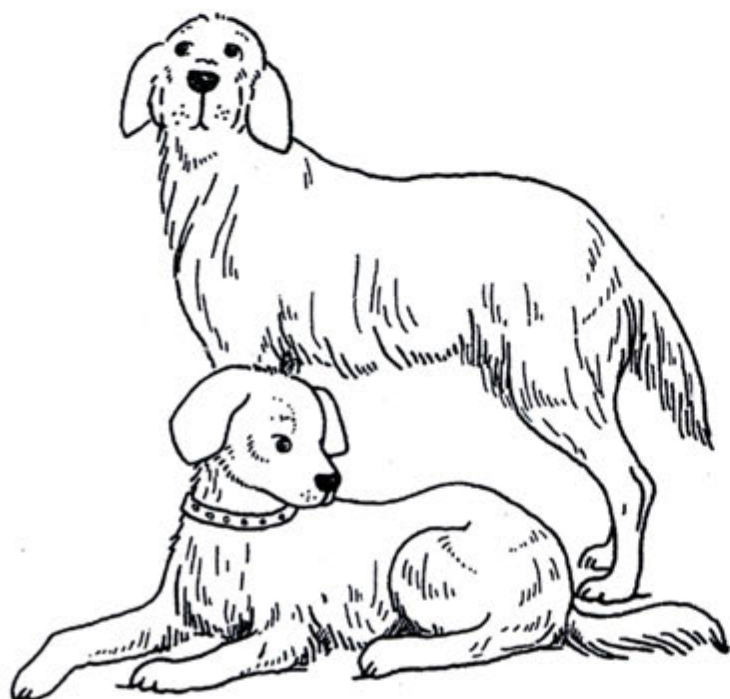
わたしの家のあたりでも、二頭の犬がいるのは、四軒ほどしかない。いや、違う。ある一軒の家には四頭の犬がいるのだ。あれはまさしく変わっている。

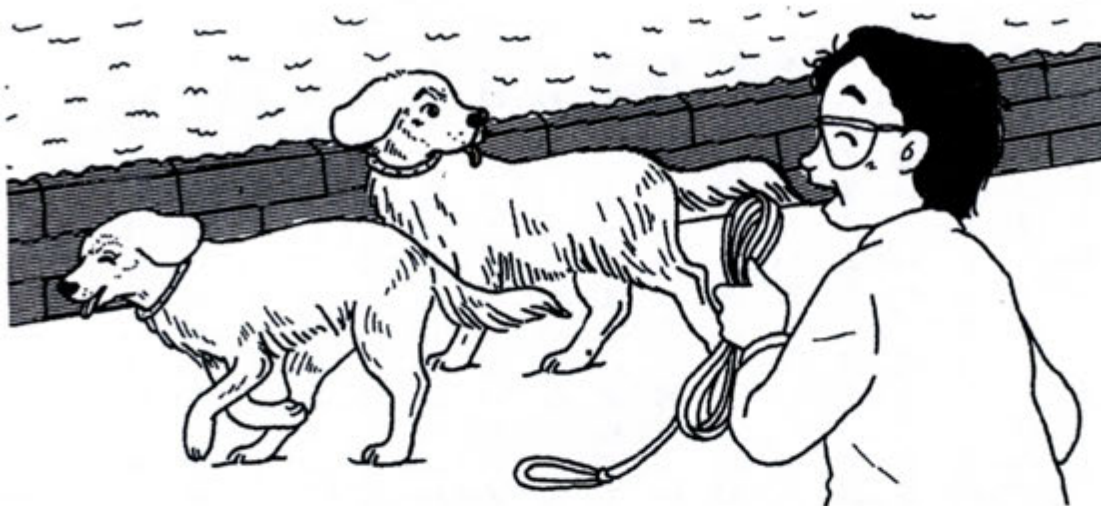
二頭のマルチーズと、二頭のダックスフントの計四頭。それも家の中で飼っている。

そして、アフガンハウンドを二頭の家。ポメラリアンを二頭の家。わたしの家では、アイリッシュセッターとゴールデンリトリバーが各一頭というわけだ。

アイリッシュセッターもゴールデンリトリバーも、ともにもともとは獵犬の種類だが、わたしはペットとして飼っている。

とはいっても二頭あわせると体重四〇キロほどになるから、散歩に連れだすのもなかなかの肉体労働である。わたしが住んでいるのは神奈川県相模原市というところで、まだまだ雑木林や空き地が多いから犬の散歩は楽である。





くそをしたら、シャベルで穴を掘り埋めてしまう。犬を飼っているながら、道路にくそを置き去りにするのはゆるせない。まさに愛

犬家のエチケットに反することだ。そういうことをすると、

世間の人に犬がくまれ、犬が肩身かたみのせまい思いをしなければならぬ。犬がかわいそうなのである。

犬はどんなにりこうでも、自分でくそを片づけることはできない。犬がシャベルをくわえて穴を掘り、後足でくそをけりこんで、前足で土をかけるなんてことができるわけはないではないか。そんなことができる犬がい

たら、それはおぼけだ。

さて、問題は、わたしが犬を散歩に連れだしているときにおきた。

いいおくれたが、犬の名は、アイリッシュセッターのほうで「アイリー」で、ゴールデンリトリバーのほうで「ローザ」である。ともに、めす。どちらもまだ、お産の経験はない。

わたしたちの散歩コースは、たいてい午前六時ごろに家を出て、保存樹林ほぞんじゅりんの指定をうけている松林を通りぬけ、ばらばらと家の建ちならぶ道路をすぎて、御園一丁目みその子ども広場に出るというかたちではじまる。

御園一丁目子ども広場はかなりの面積があり、休日はママさんソフトボールや少年野球の練習に使われている。だが普段は、二、三組の子どもたちがあそんでいる程度だから、犬の散歩にはなかなか便利だ。

それも夏の午前六時はもう太陽も照りつけているが、冬だとうす暗いときもある。まず人に出あうことはないときたま人があらわれたとしても、向こうもたいていは犬連れで、こちらの大型犬二頭を見ると、ほとんどはコースを変えて姿を消してしまう。

うちの犬たちは、人にかみついたり、ほかの犬にほえかかったりすることのない種類だし、そういうしつけも

してあるから、なにも心配することはないのだが、遠くから見るとこわい思いがするのだろう。

はじめにあれを発見したのはローザである。

ローザは陽気な性質なので、木の枝みたいなものや、置き忘れのボールをみつけたりとすると、すぐにくわえてあそびだす。アイリーにも、

「いっしょにあそばないか。」

という態度でさそいをかける。さそわれると、たちまち応じてしまうのがアイリーである。逆にアイリーからさそいをかけることはない。いつも、さそわれるばかりだ。あの朝もそうだった。だれが忘れたのか、一このゴムボールがあった。これはスポーツ用品店で売っているようなものではなくて、おもちゃ屋とか、だかし屋とかで売っているような、子ども用のゴムボールに見えた。

みどり色のゴムボールであった。

犬たちは、くわえあい、とりあいしてあそんでいた。

わたしは、ひきづなをうまくあつかいながら、犬たちのあそびを楽しんで見ていた。

と、急に、犬があそぶのをやめた。

みどり色のゴムボールが消えたのである。

ローザが、なさけなさそうな表情でわたしを見あげた。それからあれに、鼻をつっこんだ。

犬が鼻をつっこむということ
は、口もつっこむということ
で、顔の前のほうをつっこむということになる。

穴であった。

みどり色のボールは、穴に落ちたのだった。

ローザは、きやんというような声をだして、穴から鼻をだした。

なぜ、ローザが声をだしたか
というと、それは、その穴が、ローザをくわえこもうとしたからだと思う。

というのも、そのあと、わたしが、





「しようがないな、こんなところに穴を掘ったりして。子どもでも足をつっこんだりしたら、骨折するぞ。」
とつぶやきながら、ゴムボールをとってやろうとしやがみこみ、右手をつっこんだら、たしかに穴は、わたしの手首をしめつけた。

もちろんわたしはおどろいて、右手をひっこめた。そしてしばらく、穴をみつめていた。

直径約一〇センチメートル。ほぼ円型の穴だった。

わたしは、近くにあった棒切れ（これは少年野球用バットの折れたやつで、そのグリップのほうだ）をひろいあげ、穴にさしこんでやった。

やっぱり、あれは動く。

棒切れはのみこまれてしまった。

『おれは、ゆめをみているのではないか。それも、普段から、超常現象だの、UFOだのに関心を持ちすぎていたから、おきているのに、ゆめをみるようになってしまったのではないだろうか。それとも、精神にくるいがきたのか……。』

わたしはいろいろ考えながら、棒切れが消えていくのを見つめていた。

犬たちも見えていた。その意味では犬たちも間違いなく目撃者といえるのだが、残念なことに、彼女たちは、証



言をおこなうことができない。わたしも彼女たちとは親しくしているが、語りあったことはない。

というわけで、12人の目撃者のなかには、彼女たちははいつていないのだ。

おそらく、五分間は、その場に立ちつくしていたに違いない。あの、ばあさんがこなければ、そのあともずつとわたしたちはあの状態^{じょうたい}でいただろう。

ところが、あのばあさんがやってきて、穴にゴミを捨^すてたのである。

「これ、便利な穴よ。あたしがゴミを捨てても、ぜんぜん、いっぱいにならないの。昼間は、しまっているしね。」

と、ばあさんはいった。

「これは、ずっと前からあるんですか、ここに。」

と、わたしがきくと、

「そう。半年ぐらい前からね。でも、前は、あっちのすみのほうにあったのよ。それがだんだん、こっちへ移^{うつ}ってきて。」

とこたえて、立ち去って行った。それと交代するように、少年野球のメンバーが、二人、三人と、やってきた。あの日は日曜日だったのだ。

そして穴は、いったん見えなくなった。

御園一丁目子ども広場へは、小田急線相模大野駅^{おだきゅう さがみおおの}から、みゆき台団地行きバスに乗り、谷口山停留所下車^{やぐちやまていりゅうじょ}が便利である。

(第一話おわり)



文章の読み取り方

登場人物をつかむ

学習した日 / 月 日

今日は、物語などの中に登場する人物と、その行動を読み取る学習をするよ。

トレーニング1

次は、「かもの卵^{たまご}」という物語の一場面です。よく読んで、下の問いに答えなさい。

「これまでのあらすじ」ぼくたちは、図画の時間に写生の場所を探し、みんなの遊び場になっていたエントン池へ行つた。そこで、かもの卵を見つけ、次の日から毎日交代で、卵をかん視^{かんし}するために池へ行くことにしたのだ。

ある夜、大雨が降った。次の朝の当番はぼくだった。ぼくは、エントン池まで来て、びっくりした。水が増えていて、池はひと回り大きく見えた。ザブザブ入っていると、かもの巢は水の中にあつた。四個の卵もとぶんとしずんでいた。ぼくは卵をすくい上げると、ぬれていないあしを長くつでふみ固め、その上に置いた。そして、みんなの所にとんでいって、この一大事を告げた。「そうか、よし、わかった。うき巢を作ろう。ぼく、本

今日のポイント

- 1 どんな人、あるいは動物が登場しているか、そして、その人や動物はどんな関係かを読み取る。
- 2 登場している人や動物が、どんな行動をしたかを読み取る。

物語を楽しむためには、登場人物やその人たちの関係、また、その人たちの行動や会話をきちんとつかんでおく必要がありますね。

- 1 この場面に登場しているのは、だれですか。具体的に分る人を三人書きなさい。

— — — — —

- 2 この文章には、会話文が四つあります。書かれている順に、それぞれ初めの三字を書きぬきなさい。(句読点も一字に数えます。) また、だれが話しているのかを考えて、

で読んだことがある。やっぱり、大雨でつかった水鳥の巣を助ける話だった。」

石井君が言った。

「おい、伸ちゃん、君は板を持ってこい。いいか、五十センチ四方ありや上等。なかったら、もう少し小さくてもいいや。すのこでもいいんだよ。それから、うきぶくろのあるうちないか。」

「あるよ。」

ぼくは、物置の中の、かたくり粉をまぶして新聞紙に包んだうき輪を思い出した。

「よし、そいつを貸してくれ。うきぶくろを板に取り付けて、その上に、わらやあしの葉で巣を作るんだよ。」

いくら水が増えてもだいじょうぶだ。」

ぼくたちの活やくが始まった。うき巢は、くいにしつかり、つなで結びつけられた。その上には、かもの卵が四つのつかった。

〈言葉の意味〉

あし＝水辺に生える草の一種。すすきに似ている。

うき巢＝水面にうかぶ、水鳥などの巣のこと。

すのこ＝細長い板を、すき間を空けて横に並べたもの。ふろ場などで用いる。

(岩崎京子「かもの卵」)

〔 〕に書きなさい。

④	③	②	①
⋮	⋮	⋮	⋮

③ 大雨の次の朝、かもの卵はどうなっていましたか。簡潔に答えなさい。

④ 連らくを受けた石井君は、何を作ろうとしていますか。

この後、かもは、ちゃんと卵を温めるんだ。そして、四羽のひなが、親がもの後ろについて泳いでいるのがある日、見つかるんだよ。



トレーニング2

次は、「屋根うらのネコ」という物語の一場面です。よく読んで、下の問いに答えなさい。

へこれまでのあらすじへわたしの家の近くにすみつくぶちネコは、ふつうのネコの二倍もあるのらネコで、悪さをするしまつにおえないやつだ。キツネのわなをしかけてもかからない。しかし、このわなのことがあつてから、ぶちネコはすがたを見せなくなった。

それから一月ばかりたつたある日曜日のことでした。わたしは太郎をつれて、五、六百メートルさきの川へフナつりにでかけました。川べりには大きな水車場があつて、一日、ギイコットン、ギイコットンとまわっていました。その水車場の下手がふちになつていて、よく、フナがつれました。

水車場につくと、ワアワアと大きわぎしています。なにごとだろうと近づいてみると、家内じゅう総がかりで、一びきのネコを板べいのところに追いつめておりました。

それは例のぶちネコでした。

ネコは一羽のわかどりをくわえています。とりはくわえられたまま、まだ、ひくひくうごいていました。

「どりをたすけるのだ。そら、うってみろ。」

①

この場面に登場する人物を四人、本文中に出てくる形で書きなさい。

_____	_____
_____	_____
_____	_____

②

「わたし」と太郎は、どこへ、何をしに行きましたか。

① どこへ

② 何をしに

③

——線「水車場につくと、ワアワアと大きわぎしています。」とありますが、水車場で大きわぎをしていたのは、何をしていたからですか。そのことが分かる一文の初めと終わりの七字を書きぬきなさい。(句読点は一字に数えません。)

初め	終わり

水車場の主人がいました。

十五、六歳の少年が竹ぼうきをきつとふりおろしましたが、ネコは、とりをくわえたままひらりと体をかわしました。

「かしてみろ。」

水車場の主人は、ひつたくるように少年からぼうきをとると、板べいの上にとびあがろうと身がまえたネコの頭に、うちおろしました。

と、ネコはくるとからだのむきをかえました。そしてすごい目でにらみつけたと思うと、電光のようなはやさで、きつと水車場の主人のかたにとびあがりました。

「ワアアア……」

主人はふいをうたれて、大声をあげてぼうきをなげすめました。

そのすきに、ネコはそこかたをふみ台にして、水車小屋のひさしにとびあがり、そのまますがたをけしてしまいました。

〈言葉の意味〉

ふち川などで、水が動かず、深くたまっている所。
電光 稲いなびかり。いなずま。

(惊 鳩十「屋根うらのネコ」)

いなくなっていたぶちネコが、わかどりをくわえていたのね。



4 ぶちネコを追いつめ、なぐりつけようとしていたのは、だれとだれですか。

— と —

5 結局、ネコはどうなりましたか。そのことが分かる一文に——線を引きなさい。

ぶちネコの悪さに手を焼いている様子が、よく表れているお話だね。
どんな人が登場して、どんなことをしたか、きちんと読み取れたかな？



4月に学習する漢字

漢字練習シート①

練習のしかた

新出漢字

① 読みをたしかめる。

訓はその漢字の意味を表すことが多いので、習っていない訓でも、ここで覚えておくといいでしょう。

② 漢字の形と書き順に気をつけて練習する。

書き方の注意の図や、書き順に注意しながら、□に漢字をていねいに書いて、正しく書けるようにしましょう。

③ 注意する漢字に気をつける。

形が似ていたり、読み方が同じだったりして、まぎらわしい漢字があります。それにも注意して練習します。

④ 漢字のじゆく語を練習する。

いろいろなじゆく語を示してあります。使い方に注意しながら、〔 〕にじゆく語単位で書いて練習します。

読みかえの漢字

前に習った読みをたしかめたうえで、新しい読みの練習をしましょう。

新出漢字

洗

未出訓
新出音

あらう 例 体を洗う
セン

漢字を書いて練習しよう

上にはねる
洗
まげる×
×
シ+先

シ(さんずい)

シ
シ
シ
シ
シ
シ
シ

(9画)

注意する漢字 先(先生)
せんせい

◆ — の言葉を「 〓 」に書いて覚えよう。

● 洗面所(せんめんじょ)で歯をみがく。
〓 洗面所〓 顔を洗う場所。便所。

● 水洗便所(すいせんべんじょ)は清潔だ。
〓 水洗便所〓 水で洗い流せるトイレ。

● 洗練(せんれん)された動作。
〓 洗練〓 練れて上品なこと。

「洗」は、「あらう」という訓を覚えておこう。



映

新出訓
未出音

うつる うつす
エイ 例 映画

一をわすれずに
左右に出る
映
×××
史史史

日(ひへん)

注意する漢字
うつ 写る
うつ 移る

イ	日	日	日	日	日
映	映	映	映	映	映

(9画)

漢字を書いて練習しよう

◆ —の言葉を「」に書いて覚えよう。

窓(まど)ガラスに顔が映(うつ)っている。

つて

月が水に映(うつ)っている。

つて

鏡に顔を映(うつ)す。

す

同じ読みをする次の漢字に、特に注意しましょう。

映る 鏡や水などに像が現れる。 例 鏡に顔が映る。
写る 写真やテレビなどの映像(えいぞう)が現れる。下の絵や字が、紙などを通してすけて見える。

例 写真に写る。下の絵が写って見える。

染

新出訓

そまる そめる

×丸
を書かない
染
×染
大きくしない

木(き)

シ	シ	染	染	染	染
染	染	染	染	染	染

(9画)

漢字を書いて練習しよう

◆ —の言葉を「」に書いて覚えよう。

布が真っ赤に染(そ)まる。

まる

水が赤く染(そ)まって見えた。

まって

布を赤く染(そ)める。

める

じっくりていねいに
練習しようね。



忘

新出訓

わすれる

忘 はねない
亡 心

漢字を書いて練習しよう

心 (こころ)

・ 一 亡 亡 亡 亡 亡 亡

(7画)

◆ ——— の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● 時間のたつのを忘れる。

れる

● 学校にかさを忘れてきた。

れて

習った漢字を忘れたら、
もう一度練習しよう。



姿

新出訓

すがた

未出音

シ 例 姿 勢

姿 × 女 ×
次 女

漢字を書いて練習しよう

女 (おんな)

ノ ヌ ナ ナ 次 姿 姿 姿

(9画)

◆ ——— の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● はでな姿の歌手だ。

ろ

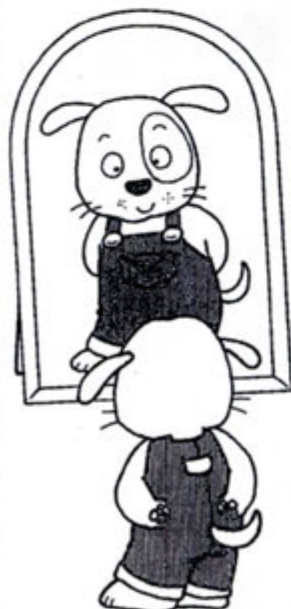
● 先生の後ろ姿が見えた。

ろ

● 姿見の前に立つ。

姿見 全身が映る大きな鏡。

姿見



去

習った訓

きこる 例 敵が去る

新出音

キヨ

習った音

コ

例 過去

◆ —の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● 去年きょねんの夏、海に行った。

↓ 去年 = 昨年。 ↑ 来年

● 祖父が昨日死去しきよいたしました。

↓ 死去 = 人が死ぬこと。

里

習った訓

さと 例 母の里

新出音

リ

◆ —の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● 母の郷里きょうりは青森県です。

↓ 郷里 = 生まれ育った土地。 ふるさと。

● 心のうちを見ぬく千里眼せんりがん。

↓ 千里眼 = 遠くのできことや、人の心のお

くなどを見通す力。

* 「里」は昔の道のりの単位。「一里」は約四キロメートル。

張

習った訓

はる 例 テントを張る

新出音

チヨウ

◆ —の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● 会社の用で出張しゅつちやうする。

↓ 出張 = 仕事でよその場所に行くこと。

● グラウンドを拡張かくちやうする。

↓ 拡張 = 広げて大きくすること。

注意する漢字 帳 (手帳)

さあ、「漢字練習シート①」は、これで終わり。時間があつたら、次の「漢字の学習①」をやろう。



曲电





4月に学習する漢字

漢字の学習①

学習した日 / 月 日

読みのトレーニング

① 線を引いた漢字の読みを書きなさい。

(1) 洗面所の鏡。

(2) 自分の顔が鏡に映っている。

(3) 顔じゅうが真っ赤に染まった。

(4) 母の郷里に遊びに行った。

(5) 急に胸が苦しくなった。

(6) 一夫^{かずお}のことを忘れたことはない。

(7) 長ぐつに黒くて長いゴムのエプロン姿。

読みの発展トレーニング

② 線を引いた漢字の読みを書きなさい。

(8) 去年の夏休み。

(9) 出張に行っていたお父さん。

(1) ア 水洗便所 イ 洗練

(2) ア 故郷 イ 郷土

(3) ア 後ろ姿 イ 姿見

○ 意味や使い方がわからないものは、「漢字練習シート①」でたしかめておこう。

3

読みの違いに注意して、——線を引いた漢字の読みを書きなさい。

(1) ア 死 去 | イ 敵 が 去 る | ウ 過 去

(2) ア 千 里 眼 | イ 母 の 里

(3) ア 拡 張 | イ テントを 張 る

書きのトレーニング

4

□に当てはまる漢字を書きなさい。

(1) せん めん じょ
の 鏡。

(2) 自 分 の 顔 が 鏡 に うつ
つ っ て い る。

(3) 顔 じ ゅ う が 真 っ 赤 に そ
ま っ た。

(4) 母 の きょう り
に 遊 び に 行 っ た。

(5) 急 に むね
が 苦 し く な っ た。

(6) 一 夫 の こ と を かずお わす
れ た こ と は な い。

(7) 長 ぐ つ に 黒 く て 長 い ゴ ム の エ プ ロ ン すがた
。

(8) きよねん
の 夏 休 み。

(9) しゅっちょう
に 行 っ て い た お 父 さ ん。

ゆっくりでいいから、
ていねいに書こうね。



書きの発展トレーニング

5

——線を引いた言葉を漢字で書きなさい。必要なものには送りがなもつけなさい。

- (1) すいせん便所は清潔だ。
 (2) 月が水にうつっている。
 (3) 水が赤くそまっで見えた。
 (4) なつかしいこきょうに帰る。
 (5) ほっとむねをなでおろした。
 (6) 学校にかさをわすれてきた。
 (7) 先生のうしろすがたが見えた。
 (8) 父が昨日しきよいたしました。

--	--	--	--	--	--	--	--

6

まちがえやすい漢字に注意して、□に漢字を書き入れなさい。

- (9) 心のうちを見ぬくせんりがん。
 (10) グラウンドをかくちようする。

--	--

- (1) ア 学校の□せん生。

- イ 水□せん便所。

- (2) ア よく□うつるカメラ。

- イ 鏡に顔が□うつる。

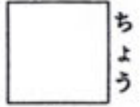
- ウ 工場が青森に□うつる。



今日の漢字のトレーニングは、
これで終わりますよ。
ご苦労さま。

(3)

ア 手て



ちょう

にメモをとる。

イ

秋田に出

しゅっ



ちょう

する。

めも

できなかった漢字の
練習に使うといいね。



漢字練習シート②

練習のしかた

新出漢字

① 読みをたしかめる。

② 漢字の形と書き順に気をつけて練習する。

書き方の注意の図や、書き順に注意しながら、□に漢字をていねいに書いて、正しく書けるようにしましょう。

③ 漢字のじゆく語を練習する。

いろいろなじゆく語を示してあります。使い方に注意しながら、「」にじゆく語単位で書いて練習します。

読みかえの漢字

前に習った読みをたしかめたうえで、新しい読みの練習をしましょう。

【注意する漢字】に、形が似ている漢字が示してあります。それに注意して練習します。

新出漢字

翌

新出音

ヨク

点のうち方
×羽×羽
(翌) 羽十立
はねる

漢字を書いて練習しよう

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

羽 (はね)

(11画)

◆ ——— の言葉を「」に書いて覚えよう。

● 翌朝、旅行に出発する。

↓ 翌朝「次の日の朝。『よくちよう』とも読む。

読む。

● 翌日の昼過ぎに出かけた。

↓ 翌日「次の日。↑前日。

● 運動会は翌週だ。

↓ 翌週「次の週。

「翌」は「次の」という意味だよ。



展

新出音

テン

漢字を書いて練習しよう

展
ノを書かない
共
とめない
表
X X

尸(しかばね)

尸 尸 尸 尸 尸 展

(10画)

◆ —の言葉を「」に書いて覚えよう。

● 事件が思わぬ進展をした。

↳ 進展「新しい方向に進行すること。」

● 都市が急速に発展する。

● 熱戦が次々と展開される。

↳ 展開「次々とくり広げられること。」

次々と新しい漢字が
展開される?



異

未出訓

こと

新出音

イ

漢字を書いて練習しよう

異
X 日
とめる
上より長く

田(た)

田 田 田 田 田 異

(11画)

◆ —の言葉を「」に書いて覚えよう。

● 異性を意識する。

↳ 異性「男性から見るとの女性、女性から見るとの男性。↑同性」

● 意見に大きな差異がある。

↳ 差異「ちがひ。相違。」

● 異常な事態が発生した。

↳ 異常「正常でないこと。↑正常」

※ 「異」は「ふつうとちがう。変な」という意味です。

朗

新出音

ロウ

わすれずに
朗
良^x はねる
はろう

漢字を書いて練習しよう

月(つき)

・
う
き
良
朗
朗
朗

(10画)

◆ ———の言葉を「」に書いて覚えよう。

● 詩を朗読する。

↓朗読「文や詩を声に出して読むこと。」

● 明朗で活発な少年。

↓明朗「明るくてほがらかなこと。」

● 「優勝！」との朗報が入った。

↓朗報「よい知らせ。」 ↓悲報

※ 「朗」は、「はつきりした声。ほがらか。よい」などの意味を表します。

奏

新出音

ソウ

夫^x
奏
よ³本
上より長く
天^x
ハの響き出し
とめる

漢字を書いて練習しよう

大(だい)

三
声
夫
奏
奏
奏
奏

(9画)

◆ ———の言葉を「」に書いて覚えよう。

● ピアノを演奏する。

● クラス全員で合奏する。

↓合奏 ↓独奏

● フルートの独奏をきく。

↓独奏「ひとりで楽器を演奏すること。」

※ 「奏」は「演奏する。かなでる」という意味を表します。



口

習った訓 くち 例 口を開く
新出音 ク 習った音 コウ 例 人口

◆ —の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● 重々しい口調で話す先生。

↳ 口調＝話し方の調子。

● 異口同音に全員反対した。

↳ 異口同音＝多くの人が口をそろえて同じことを言うこと。

預

新出訓 あずかる あずける
習った音 ヨ 例 預金

◆ —の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● お客の荷物を預かる。

● お年玉を母に預けておいた。

願

習った訓 ねがう 例 お願い
新出音 ガン

◆ —の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● 長年の願望がかなった。

↳ 願望＝強く願う望むこと。

● 念願がかなって合格した。

↳ 念願＝長い間思っていた願い。

※ 「願」は「ねがう」という意味です。

曲

習った訓 まがる まげる 例 右へ曲がる
新出音 キヨク

◆ —の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● 美しい曲をピアノでひく。

↳ 「名曲。作曲」などの「曲」と同じ。

● 飛行機が曲線をえがいて飛んだ。

↳ 曲線↑直線

注意する漢字 由（理由）



4月に学習する漢字

漢字の学習②

学習した日 / 月 日

読みのトレーニング

① 線を引いた漢字の読みを書きなさい。

(1) 翌朝、綾子^{あやこ}の心配は、ふき飛ばされた。

(2) 事件はどう進展するか。

(3) 異性へのあこがれ。

(4) 朗読の仕方を工夫する。

(5) 先週の発表会で、演奏した。

(6) 哲夫^{てつお}の口調は生き生きしている。

(7) お母さんから預かったお金。

読みの発展トレーニング

② 線を引いた漢字の読みを書きなさい。

(8) 期待や願望にわくわくする。

(9) クラスで作った曲。

(1) ア 翌日 イ 翌週

(2) ア 発展 イ 展開

(3) ア 差異 イ 異常

(4) ア 明朗 イ 朗報

(5) ア 合奏 イ 独奏

③

読みの違いに注意して、——線を引いた漢字の読みを書きなさい。

(1) ア 異口同音 イ 口を開く

ウ 人口

(2) ア 預ける イ 預金

(3) ア 念願 イ お願

(4) ア 曲線 イ 右へ曲がる

書きのトレーニング

④

□に当てはまる漢字を書きなさい。

よくあさ

(1) 、綾子の心配は、ふき飛ばされた。

しんてん

(2) 事件はどう  するか。

(3)

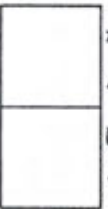
 へのあこがれ。

(4)  の仕方を工夫する。

(5) 先週の発表会で、 した。

(6) 哲夫の  は生き生きしている。

(7) お母さんから  かったお金。

(8) 期待や  にわくわくする。

(9) クラスで作った  。

漢字は、ていねいに書こうね。



書きの発展トレーニング

5

——線を引いた言葉を漢字で書きなさい。必要なものには送りがなもつけなさい。

- (1) よくじつの昼過ぎに出かけた。
- (2) 都市が急速にはってんする。
- (3) 意見に大きなさいがある。
- (4) めいろうで活発な少年。
- (5) クラス全員でがつそうする。
- (6) いくどうおんに全員反対した。
- (7) お年玉を母にあずけておいた。
- (8) ねんがんがかなって合格した。

--	--	--	--	--	--	--	--

6

まちがえやすい漢字に注意して、□に漢字を書き入れなさい。

(1)

ア 理^り

^ゆ
う

もなく泣いた。

イ コンサートで名^{めい}

^き
よく

をきく。

(9) きよくせんをえがいて飛ぶ鳥。

トレーニングは、これで終わり！
よくがんばったね。ごくろうさま。







物語／赤い実ほじけた（名木田恵子）
なぎ たけいこ

大切な言葉の学習

学習した日／ 月 日

言葉のトレーニング

①

次の文が自然で意味の通る文になるように、
□から言葉を選び、必要なものは形を変えて「」に書きな
さい。

- (1) となりのおじさんとは、毎朝、顔を「
」
ている。
- (2) 道を歩いていてふと足もとを見ると、スリッパをはい
ていたの、はずかしくて「
」ように帰っ
てきた。
- (3) 妹は、犬はこわい、という幼いころの印象を、大きく
なった今でも「
」ている。
- (4) いつもけんかばかりしていたヒロシ君が転校すると聞
いて、急に胸が「
」た。

苦しくなる 引きずる 合わせる にげる

②

——線を引いた言葉の意味をア・イから選び、記号に
○をつけなさい。

- (1) この絵からは、さわやかな印象を受けた。
ア その人なりに受けとめて、心にきざみつけた感じ。
イ そのものについているマーク。
- (2) 友達に対して、先入観を持つ。
ア 最初から知っていたこと。
イ はじめからの思いこみ。
- (3) 制服を着た兄は、一人前のパイロットに見えた。
ア ふつうの大人一人が一回に食べると考えられる分量
のこと。
イ 一人の社会人として、りっぱな能力や技術を持つこ
と。

③

「 」の中に当てはまる言葉を から選んで書きなさい。

(1) 花屋の店員は としての動作ですば

やくバラをたばねていった。

(2) 歌うのが大好きなひろし君は、音楽の時間になると

してくる。

(3) 「明日は遠足だ。」ときけぶと、弟は、道を歩いている人たちを と追いぬいて走っていた。

(4) 小鳥のヒナを見つめる妹の目は、 光っていた。

すいすい きらきら 生き生き きびきび

きらきら、すいすい、
生き生き、などは
様子を表す言葉ね。



④

——線を引いた言葉の意味をア・イから選び、記号に○をつけなさい。

(1) 大ぜいの見知らぬ大人たちにとり囲まれて、たかしは小さくなっていた。

ア 大きさがちぢむ。

イ おそれやえんりよなどの気持ちでちぢこまる。

(2) マラソン大会で一等になって、テレビのインタビューをうけた。マイクの前であがって、口ごもってしまった。

ア 口の中に言葉がこもってもぞもぞ言う。

イ 言いにくいことがあってとちゅうでつかえる。

休み時間は元気なのに、
授業で先生に指されると
小さくなって口ごもっている人、
いるよね。



5

次の文が自然で意味の通る文になるように、 から言葉を選び、必要ならば、形を変えて「 」に書きなさい。

- (1) おばさんは「ちよつと待っててね。」と言うと、おくに
 「 」でしまった。
- (2) 妹は、笑うと八重歯が「 」。
- (3) みかんとりんごどパイナップルの代金をまとめて
 「 」たので、さいふはからっぽだ。
- (4) 発表会の前にどきどきしてきたので、思わず胸元を
 「 」て大きく息をした。
- (5) 兄の元気そうな顔を見たたん、それまでの心配が
 「 」れた。

のぞく ふき飛ばす 引っこむ
 はらう おさえる

6

次の文の——線部と同じ使われ方をしているものを、ア〜ウから選び記号に○をつけなさい。

◆ くだものなら何でも好きだから迷ってしまうけど、や
 っぱりいちごがいちばん好きだな。

ア 一時はどうなることかと思っただけで、やっぱり赤
 組が勝ったね。

イ いろいろな意見が出たけど、やっぱり彼女かのじょの考えが
 正しいと思うよ。

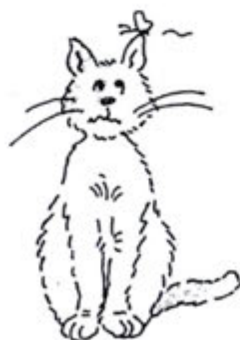
ウ 今でもやっぱり自転車で通学しているの。

アは、「予想どおり」

イは、「あれこれ考えた末、一つのことに決める様子」

ウは、「前と同じように、今でもなお」
 の意味で使われているよ。

今日の学習はここまで。答え合わせをしよう。



めも





物語／赤い実のはじけた（名木田恵子）

登場人物の気持ちを読み取る①

学習した日／ 月 日

今日のポイント

- 1 気持ちをはっきり表している言葉を見つける。
 - 2 気持ちを表している行動や会話を手がかりにする。
 - 3 登場人物になったつもりで考える。
- 気持ちを読み取るには、登場人物が何をしたのか、また、なぜそういうことをやったのか、ということも考えます。

トレーニング1

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

去年の夏休み。母の郷里に遊びに行ったとき、いとこの千代ちよが言っていた。

「①急に胸が苦しくなってきた、とたん、胸の中で、赤い実がはじけたの。」

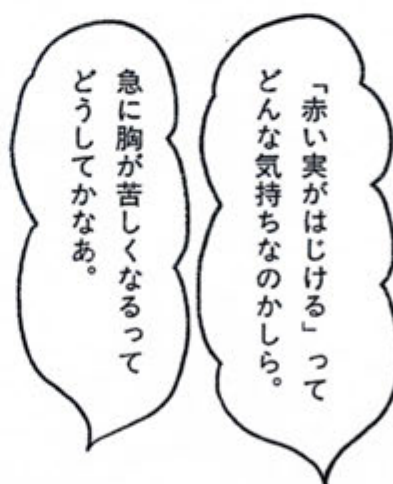
あの夏の夜、千代とふとんにもぐりこんで、いろいろな話をした。そのとき千代は、はずかしそうに、一夫君かずおのことを言いだしたのだ。同じクラスの一夫君の横顔に夕日が当たったしゅん間、千代の胸の中で、赤い実がは

①

——①「急に胸が苦しくなってきた、とたん、胸の中で、赤い実がはじけたの。」とありますが、千代がこのようになったのはどんなときだったのですか。本文中から書きぬいて示しなさい。

②

——②「一秒だって一夫のことを忘れたことはないの」とありますが、それはなぜですか。次の中から一つ選



じけたというのだ。

「不思議なのよ。一夫君とは小学校もいっしょでしよう。同じクラスになったことはなかったけど、それまで毎日のように顔を合わせていたのに、そんなことなかった。それが、とつ然——。」

それから千代は、②一秒だつて一夫のことを忘れたことはないの、と言った。

中学一年になった千代は、一年前の夏会ったときに比べて、話しかけにくいほど大人っぽくなっていた。

「綾ちゃんも、いつか赤い実がはじけるわよ。そしたら教えてね、地しんみたいにとつ然来るんだから。」

そう言つて千代は、まぶしいようなえがおをうかべた。

その夜の千代との会話を、綾子はときどき思い出した。「赤い実がはじけるって、どんな感じがしら。とつ然来るって、わたしにはいつかな——。」

③想像すると、なんだかときどきしてくる。

び、記号に○をつけなさい。

ア 一夫の横顔を初めて見てたいへんびっくりしたから。イ 小学校からずっといっしょで、毎日会っているから。ウ タ日をあびた一夫の横顔に、心が強く引かれたから。

③

綾子から見ると、千代はどんなふううつ映っているでしようか。そのことが分かる文を二つ、本文中に——線を引いて示しなさい。

④

——③「想像すると、なんだかときどきしてくる。」とありますが、綾子はどんな気持ちなのでしょう。次の中から二つ選んで、記号に○をつけなさい。

ア 千代に負けたくない気持ち イ あこがれ
ウ 未知のみちのものへの期待 エ おそろしい気持ち

⑤ 綾子の気持ちはせりふの形で書かれているよ。

「赤い実がはじける」って
やっぱり体験しないと
分からないみたいね。



トレーニング2

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

①千代ちよが言ったのは、本当だった。それは、まったく
とつ然——。急に胸が苦しくなつて——。

パチン。

思わず飛び上がるほど大きな音を立てて、胸の中で何
かがはじけたのだ。②予想もしていなかった。だって、
話していた相手が哲夫ていぶだったんだもの——。

岡本哲夫は、綾子あやこの苦手なタイプの男の子だった。ど
こが苦手かときかれても、うまく答えられない。

一年生のときから、同じクラスだった。声が大きくて、
なんだかこわい。そんな最初の印象を、六年生になった
今まで引きずっていたのかもしれない。

哲夫君はおっかない。そんな先入観があつて、「魚進うおしん」
にだけは買い物に行かなかった。町外れにある「魚進」
が哲夫の家。

だけど、今日はしかたがなかった。お母さんがかぜを
ひいて、買い物に出られない。長いこと出張に行つてい
たお父さんが、今夜帰ってくるのに——。

お父さんの何よりの楽しみは、おさしみを食べながら
お酒を飲むこと。

①「千代ちよが言ったのは、本当だった。」とありますが

が、何が本当だったのですか。本文中の、そのできごとを
表している部分に——線を引きなさい。

○ いよいよ綾子にも、「赤い実がはじけた」んだね。

②「予想もしていなかった」のはなぜですか。次
の「——」に適切な言葉を書き入れなさい。

話していた相手が、

——という

——の——なタイプの

男の子だったから。

③ 綾子は、それまで哲夫のことをどんな子だと思ってい
ましたか。本文中から二か所書きぬいて答えなさい。

「いいや。岡本君の店ってだけで、べつに哲夫君がお店に出てるわけじゃないもんね。」

綾子はそう自分に言い聞かせた。

ところが――。

「らっしやい。」

店の前まで来て、綾子はにげ出しそうになった。大声でむかえてくれたのは、哲夫だったのだ。

「なんだ、米田^{よだ}じゃないか。」

哲夫の顔がくしゃつとなる。哲夫は、長ぐつに黒くて長いゴムのエプロン姿。学校で会うイメージとはちがって、一人前の魚屋に見える。

「米田、いつもうちで魚買ってくれてんのか。」

「えっ、あのう――。」

綾子がうまく返事できずにいると、

「おっ、哲の友達か。」

店のおくから、哲夫そっくりのお父さんが顔を出した。

「米田綾子、いっしょのクラスなんだ。」

哲夫が大声で説明している。綾子は小さくなった。周りに、ほかのお客さんがいないのが、せめてもの救いだ。

哲夫君は綾子の好きなタイプじゃないみたい。どうして赤い実がはじけたんだろう……。

？ ？



4

本文から考えて哲夫の人がらとして当てはまるものを、次の中から二つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 人なつつこい イ おこりっぽくていじわる
ウ れいき正しい エ 話し方がざつくばらん

● 哲夫のせりふの内容や、気さくに話しかけた点や「哲夫の顔がくしゃつとなる」の態度などから考えよう。

哲夫君ってあらっばいけど
気さくな男の子なのね。





物語／赤い実はじけた（名木田恵子）

登場人物の気持ちを読み取る②

学習した日／ 月 日

今日のポイント

- 1 気持ちをはっきり表している言葉を見つける。
- 2 気持ちを表している行動や会話を手がかりにする。
- 3 登場人物になったつもりで考える。

トレーニング1

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「おつかいなんて、えらいねえ。今日はタイがおいしいよ。それから、このアジのたたき、哲が作ったんだよ。うちの哲も、よくてつだってくれます。なあんちゃつて。」

① お父さんは一人で笑って、またおくに引っこんでいた。

「今の季節、やっぱりさしみはタイだね。マグロも新せんだよ。」

哲夫の口調は生き生きしている。お母さんから預かったお金で買えそうなので、綾子はタイとマグロをたのん

①

——①「お父さんは一人で笑って」とありますが、「お父さん」のせりふのどういうところがおかしいのでしょうか。

○

「うちの哲も、よくてつだってくれます。」のどこだね。

②

哲夫について綾子が心の中で言った言葉になっている一文を、本文中から書きぬいて示しなさい。

○

綾子は、哲夫の新しい一面に気づいていくんだね。

③

——②「経木で包むのも、このへんじゃあ、うちの店くらいだよ。」という言葉には哲夫のどんな気持ちが感じられますか。次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

だ。

「毎度ありい。」

哲夫って、笑うとやえ歯がのぞくんだ。

② 経木で包むのも、このへんじゃあ、うちの店くらいだよ。今は、みんなスーパーだろ。魚をパックするなんて、かわいそうでよ。」

哲夫はきびきびとさしみを包んでいく。

「アジのたたき、おまけな。食べてくれよ。」

哲夫はじまんそうに、アジのたたきも包んでくれた。

「今はサヨリもうまいぞ。もう少ししたらカツオだな。」

「くわしいのね。」

魚を受け取り、代金をはらいながら、綾子は初めて哲夫を正面から見た。

「おれ、魚好きだからな。」

哲夫の目はきらきら光っている。

「食っちゃうなんてかわいそうな気もするけど、どうせなら、おれはこんなうまいんだぞって、魚にいばらせてやれるような、日本一の魚屋になりたいんだ。」

そのときだ。綾子の胸が急に苦しくなってきた、特大のパチンが来たのは――。

い。

ア 昔ながらのやり方を続けていることへのほこり。
イ 古くさいやり方に対するはずかしさ。
ウ がんこなお父さんに対する不満とあきらめ。

○

「経木」は木をうすくけずって紙みたいにしたものだよ。

④

綾子が苦手だと思っていた哲夫のよい面をみとめはじめている、ということが分かる動作があります。その部分を本文中から書きぬいて示しなさい。

⑤

哲夫の動作や態度の様子を表している四字の言葉を、本文中から三つ、書きぬいて答えなさい。

哲夫ってかっこいい！

パチン



こうして綾子にも
特大のバチンが来たわけ。
さあ、最後の部分を読もう。



トレーニング2

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「^{うおしん}魚進」で買ったおさしみに、お父さんはとても満足したようだ。

「今日のは、特にうまかった気がするよ。」

「そうでしょう。このアジのたたき、わたしの友達が作ったんだって。」

^{あやこ}綾子は、①自分の声が大きくなっているのを感じた。

「そういえば、『魚進』のむすこさん、綾子と同級生だったわね。このごろ、もう一人前にお店を手伝っているのよ。」

お母さんがそう言ったので、綾子はなんだか、②耳の辺りがかゆくなってきた。うれしいような、はずかしいような――。それにしても、あのとき、急にかけだしたりして、^{てお}哲夫は変に思わなかっただろうか。

1

――①「自分の声が大きくなっているのを感じた」とありますが、なぜそうだったのですか。次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 自分がおつかいで買ってきたのをほめてもらいたかったから。

イ 生き生きと魚屋を手伝っている哲夫をりっぱだと思いい心が引かれているから。

ウ 両親をびっくりさせようと思ったから。

2

――②「耳の辺りがかゆくなってきた」ときの綾子はどんな気持ちですか。本文中の言葉を使って答えなさい。

3

哲夫の様子をたとえを使って表している一文を、本文中から書きぬいて示しなさい。

○ 哲夫は、態度や言葉づかいがらんぼうに見えるけど、さわやかで、のびのびした男の子なんだね。たとえにもそれがでてくるよ。



「おっはよう。」
翌朝、綾子の心配は、哲夫のさわやかな大声にふき飛ばされた。
海の中を泳ぐ魚のように、すいすいと綾子を追いぬいて走っていく哲夫——。その後ろ姿を見ながら、綾子は、今夜、③千代に手紙を書こうと思った。



4

——③「千代に手紙を書こうと思った」とありますが、どんな内容の手紙になると思いますか。考えて書きなさい。(第5日の「トレーニング1」の本文を参考にするここと。)

5

この作品の題名の「赤い実はじけた」とは、どういう意味ですか。次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。
ア 何気ない毎日の生活の中で、ふと、すばらしい自然の姿にふれること。

イ 友達の、それまで全く知らなかった行動や言葉にふれて、たいへんなショックを受けること。

ウ 異性の友達の、それまでの印象とちがった一面にふれて、突然、強く引きつけられること。

クロスワードパズル

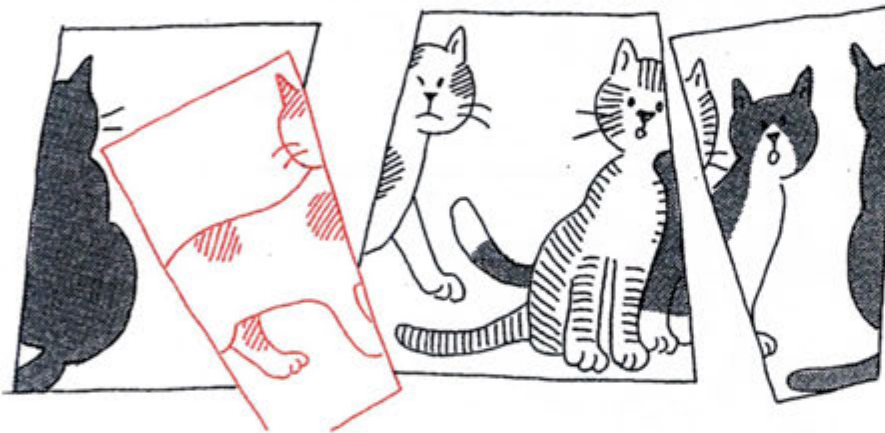
で、ひとやすみ



ここらでちょっと、頭を休めてリラックス。
クロスワードパズルの時間だよ。君は、何分で全部できる
かな。

ヘタテのカギ

- 2 二枚の板と二本のぼうで雪の上をすべります。
- 3 針に通して布をぬいます。
- 4 七日に一回出される雑誌です。
- 5 注射をするときは、痛くても□□□しなさい。
- 6 手と手をにぎってあいさつします。
- 8 □□つきはどろぼうの始まりといえます。
- 10 まわりは緑と黒、中は赤いくだもの。
- 11 学校へ通うこと。



- 13 コンブやカツオブシからとります。
- 15 黄色く光る金属。
- 17 絵のことを難しくいうと……。
- 19 赤いつぶつぶ。スシにも使います。
- 20 西と南西の間の方向。
- 21 折ってツルなどを作ります。
- 24 雨の日にさします。
- 25 ブドウからつくるお酒。
- 26 一から六までの目が出ます。
- 27 あまり大きくない建物。
- 29 新聞に入っている広告のこと。
- 30 はまべにたくさんあります。
- 32 絹糸を作る虫。
- 35 ドアについているあなにさしこみます。

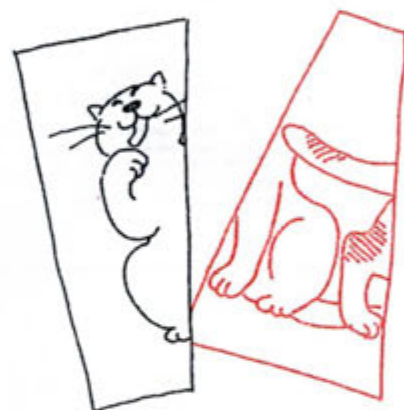
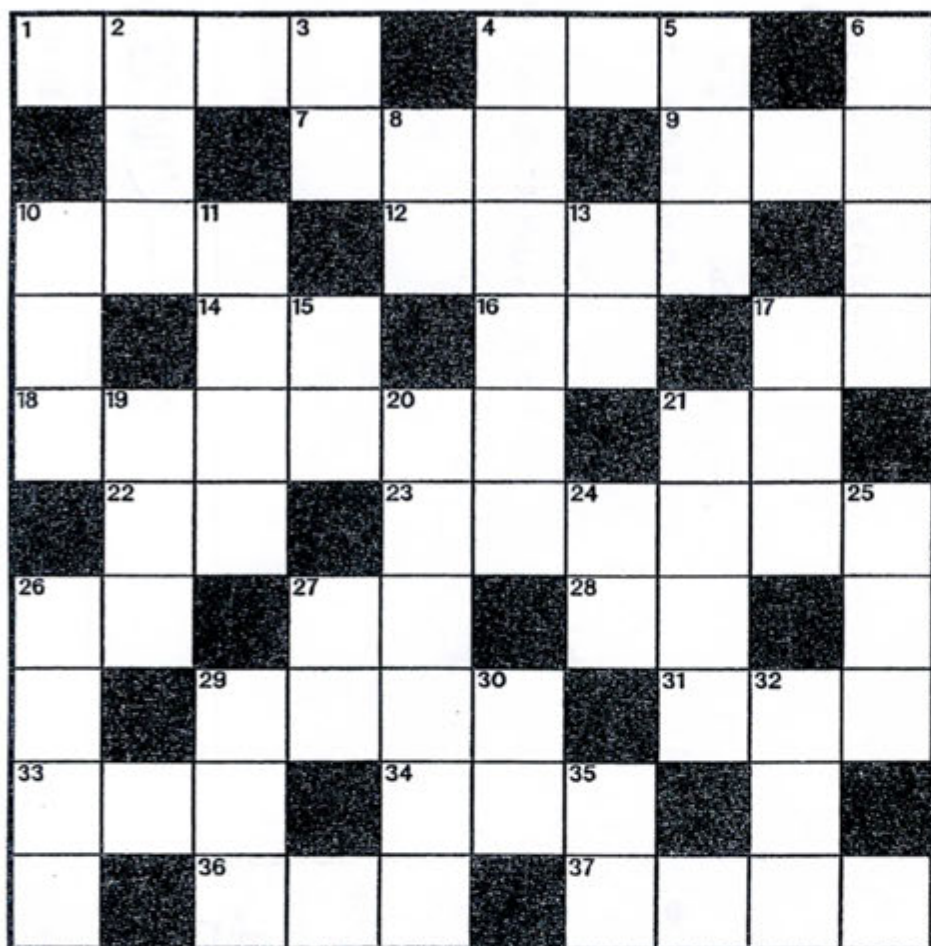
へヨコのカギ

1 バスがとまるところ。

4 白いかみの毛。

7 石油ストーブに入れます。

9 かぜのとき、口と鼻をおおいます。



10 上着とズボンでワンセット。

12 何人かでどうするかを話し合います。

14 つり糸につけて水にうかべます。

16 おやつに食べます。

17 おなかのぐあいが悪いとき食べます。

18 陸と海のさかいめの線。

21 兄・姉・弟・妹のむすこ。

22 一×一から九×九まで。

23 北海道でいちばん大きい川。

26 料理をのせるうすいうつわ。

27 □□の薬は、水といっしょに飲みま

す。

28 福岡・長崎には含まれた県。

29 ノーアウト満塁、得点の□□□□。

31 愛媛や和歌山でたくさんとれるくだ

もの。

33 茶色くてあわの出る飲み物。

34 おなかの反対側にあります。

36 剣道で刀のかわりに使います。

37 お金を預けておくところ。

答えは49ページ

4月に学習する漢字

漢字練習シート③

練習のしかた

新出漢字

① 読みをたしかめる。

② 漢字の形と書き順に気をつけて練習する。

□に漢字をていねいに書いて、正しく書けるようにします。

③ 漢字のじゆく語を練習する。

「**担**」にじゆく語単位で書いて練習します。

読みかえの漢字

前に習った読みもたしかめておきましょう。

漢字は、ゆっくりでいいから、
ていねいに書いて練習しよう。



新出漢字

担

新出音

タン

よこ一本

担

× 且 × 且

つけない

漢字を書いて練習しよう

才(てへん)

一 才 才 才 扣 扣 担

(8画)

◆ ———の言葉を「**担**」に書いて覚えよう。

① そうじの分**担**を決める。

② 分**担**みんなで分けて受け持つこと。

③ 会計係を**担**当する。

④ **担**当 仕事や役目を受け持つこと。

⑤ 担任の先生が代わった。

⑥ 担任のクラスや教科を受け持つこと。

※ 「担」は「受け持つ。かつぐ」という意味です。

卷

新出訓
未出音

ま・く まき
カン 例 第三卷

漢字を書いて練習しよう

美 卷 券
よこ2本

〇 (ふしづくり)

〇
〇
〇
〇
〇
〇

◆ — の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● 平家物語の絵入りの巻き物を見た。
↓ 巻き物=紙や布を巻いた物。

き

● 足に包帯を巻いた。

いた

● 平家物語の一の巻を読む。
↓ 巻=本や物語のくぎり。

の



処

新出音

シヨ

漢字を書いて練習しよう

又 処 几
まげてはわる

几 (つくえ)

ノ
ク
久
処
処
〇
〇

◆ — の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● いやな問題を処理する。
↓ 処理=かたづけて、しまつすること。

〇

● 問題にすばやく対処する。
↓ 対処=適切なしまつをつけること。

〇

● 燃えないごみを処分する。
↓ 処分=不用品などをしまつすること。

〇

ここの「処」は、「しまつする」という意味だよ。



増

新出訓 ます

習った訓 ふえる ふやす 例 数が増える

習った音 ソウ 例 増加

◆ —の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● 雨のため川の水が増した。

した

● 時間がたつにつれ喜びも増す。

す

備

新出訓 そなえる そなわる

習った音 ビ 例 準備

◆ —の言葉を「 」に書いて覚えよう。

● 冬の寒さに備える。

える

● 備える＝準備する。

● 必要な道具は備わっている。

わって

● 備わる＝そろっている。準備してある。

今月の「漢字練習シート」は、
これで終わりだよ。
がんばったね。ごろうさま。



1	バ	2	ス	3	テ	イ		4	シ	ラ	5	ガ		6	ア
			キ		7	ト	8	ウ	ユ		9	マ	ス	ク	
10	ス	ー	11	ツ		12	ソ	ウ	13	ダ	ン			シ	
	イ		14	ウ	15	キ		16	カ	シ		17	カ	ユ	
18	カ	イ	19	ガ	ン	20	セ	ン		21	オ	イ			
		22	ク	ク		23	イ	シ	24	カ	リ	ガ	25	ワ	
26	サ	ラ			27	コ	ナ		28	サ	ガ			イ	
	イ		29	チ	ヤ	ン	30	ス		31	ミ	32	カ	ン	
33	コ	ー	ラ		34	セ	ナ	35	カ			イ			
	ロ		36	シ	ナ	イ		37	ギ	ン	コ	ウ			

〈クロスワードパズルの答え〉



4月に学習する漢字

漢字の学習 ③

学習した日 / 月 日

読みのトレーニング

① 線を引いた漢字の読みを書きなさい。

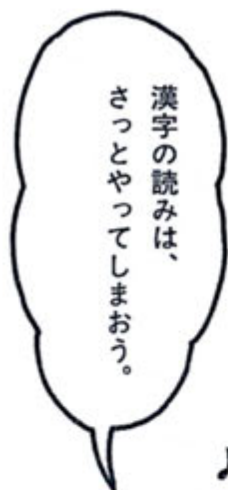
(1) 分 担 を 決 め る。

(2) アルバムや絵入りの 巻 き 物。

(3) 処 理 の 仕 方 は い ろ い ろ あ り ま す。

(4) これまでも 増 してたくさんあります。

(5) 修学旅行に 備 える。



ふ



読みの発展トレーニング

② 線を引いた漢字の読みを書きなさい。

(1) ア 担 当 イ 担 任

(2) ア 巻 く イ 一 の 巻

(3) ア 対 処 イ 処 分

③ 読みの違いに注意して、線を引いた漢字の読みを書きなさい。

(1) ア 増 す イ 増 える ウ 増 加

(2) ア 備 わる イ 準 備

次のページでは、書きのトレーニングをやるよ。

書きのトレーニング

4

□に当てはまる漢字を書きなさい。

(1)

ぶんたん

を決める。

(2)

アルバムや絵入りの

ま

--

き

もの

--

。

(3)

しより

の仕方はいろいろあります。

(4)

これまでに

ま

--

してたくさんあります。

(5)

修学旅行に

そな

--

える。

書きの発展トレーニング

5

——線を引いた言葉を漢字で書きなさい。必要なものには送りがなもつけなさい。

(1)

会計係をたんとうする。

(2)

足に包帯をまいた。

(3)

問題にすばやくたいしよする。

(4)

時間がたつにつれ喜びもます。

(5)

必要な道具はそなわっている。

--	--	--	--	--

答え合わせを
ていねいにやってから、
終わりにしようね。





表現・作文

作文の組み立てを考える

学習した日 / 月 日

今まで五年間の小学校生活の中で、きっと何度も作文を書いてきたよね。

今年は、卒業文集に向けて、今まで学習してきたことを、もう一度復習して、きちんと自分のものにしていこう。

今日の学習は、
「組み立てを考えて書く」ということ。その前に題を決めるとききの注意をいくつか。

★題を決める★

日ごろから、感じたり考えたりしたことをメモしておく。

書きたいことの中心をはっきりさせる。

具体的な材料を集めて、必要な材料だけを選ぶ。



では、さっそく今日の学習に入るよ。
次の文章を読んでみよう。

① 教室のかべに、ボールを二十回ぐらい当てたときだった。取りそこなったボールが、先生の机の上にあつた花びんに当たった。ガッチャーン、大きな音とともにわたれた花びんから、水がとびちった。

② ガッチャーン、「しまった。」ぼくは、体じゅうの血の気が引いていくのを感じた。あれほどまでに注意されていたのに……。しばらくは、ぼうぜんとなれた花びんをながめていた。

同じできごとでも、書きたいことによつて、書き方や組み立て方がちがうなあ。



そうだね。

①は、花びんをわった事実を中心に書いた文章。

②は、花びんをわったときの気持ちに重点をおいて書いた文章だ。



作文の組み立てを考えるポイント

- 1 書き出しをどうするか。
- 2 どこをくわしく書くか。
- 3 結びをどうするか。

この三点に注意して、まず、組み立てメモを作ってから、作文を書くといいね。

組み立てには、いろいろなものが考えられるよ。どう書こうと、それは君の自由だ。次に、ふつうよく用いられる組み立てをあげておくから、参考にしよう。

パターン①

中心を書く

←
いろんな材料で中心の肉付けをする

←
もう一度中心を書いてまとめる

パターン②

時間の流れにそって書く

←
中心はていねいくわしく書く

←
思ったこと、考えたことでまとめる

作文の組み立てを考えるときのポイント
わかったかな。



では、実際の文章でトレーニングをしていこう。

トレーニング

次の作文を読んで、問いに答えなさい。

作文の組み立てメモ

題「新しい絵の具」

- 1 お父さんがおみやげを買ってきたこと。
- 2 油絵の具の様子。
- 3 自分の気持ち。

新しい絵の具

六年 山本 京子

お父さんが、

「おい、今度の休みにはスケッチだぞ。」

と、絵の具のおみやげを買ってきた。

おどろいた。お父さんは、いつもいそがしいとかで、

こんなことは初めてだし、絵の具といっても、今までと

はちがう油絵の具。

大きな道具箱の中には、長くて、筆先が真っ白な筆が三本と、折りたたみ式のパレットと、油絵の具が入っている。チューブを数えてみると、二十四本。水さい絵の具と比べるとやっぱりこっちのほうがりっぱにみえる。

ラベルの色がきれいだ。手に取ってみるとひんやり冷

中心をはっきりさせて書くには、中心からはずれないように書くといいね。



1

山本さんは、「作文の組み立てメモ」を書いてから作文を書いていきます。それぞれ、何行めから何行めにあたるでしょう。（行数は、題と名前を除いて数えること。）

1 お父さんがおみやげを買ってきたこと。

2 油絵の具の様子。

3 自分の気持ち。

行め	行め	行め
行め	行め	行め

たい。全部が新しいから、まるで入学式のときの一年生
のようだ。入学式のときは、とつてもきん張したつけ。
新しいはじめての油絵の具。使い方がすこし心配だけ
ど、大事に使っていいこうと思う。



②

山本さんが、この作文で書きたかったことの中心は何
でしょうか。当てはまるものを次の中から選び、記号に○
をつけなさい。

ア 今まで使っていた水さい絵の具と油絵の具のちがい。
イ 新しい油絵の具のこと。

ウ お父さんが初めておみやげを買ってきたこと。

③

山本さんは、組み立てメモには書かなかったけれど、付
け加えて作文に書いたことがあります。その部分に
——線を引きなさい。

山本さんは、
とちゅうで、ちよつと
脱線しちゃったみたい。



君も、組み立てメモを作つて、実際に作文を書いてみよう。
今日は、これまで。おつかれさま。

「大きな森の小さな家」

ローラインガルスウィルター 作

ようこそ、トレペ図書館へ。

みんなは、外でキャンプをしたことがあるかな？

まきを拾い、水をくみ、魚をつる。

火をおこして、魚を焼き、ごはんをたく。

電気も水道もなくて、何もかも自分たちの力でやらな

きやだねなんだ。

おまけに、こわいオオカミまでいて、これが毎日続く
としたら……。どうなるだろう？

今から百年くらい前、アメリカ合衆国には、ほんとう
にこんな暮らしをしながら、土地を切り開いていった人
たちがいたんだ。

このお話を書いたローラインガルスウィルターもその
一人。

ローラが子供のころ、ローラの一家は、何もない土地
で何もかも自分たちでつくり上げるような生活をしてい
たんだ。

一家は大きな森に住み、土地を耕し、野生のシカをと
ったり牛や豚を飼ったりする。

牛のミルクでバターやチーズを、もちろん手づくり。

豚からはハムやベーコン。

森にはクマやオオカミ、お

まけにヒョウまでいるんだ。

父さんと番犬のジャックが

守っているけど、だいじょう

ぶかな。

君たちも、好奇心いっぱい

の女の子、ローラといっしょ

に、森の生活を味わってみよ
う！



「大きな森の小さな家」には、続きもあるんだ。こつちのほうも読んでみて。

「大草原の小さな家」

広い広い大草原に旅立ったローラの一家は、家を建てる。

でも、そこはインディアン土地だった。

一家は家も畑も捨てて、また旅立つんだ。

「ブラム・クリークの土手で」

ブラム・クリークの土手に落ちついた一家は、小麦を植える。

大豊作だ。

だが、取り入れの直前に、突然、空からイナゴの犬群がふりそそぎ、バリバリと食べてしまう。

ああ、またやりなおし。

「シルバー・レイクの岸辺で」

姉メアリーは熱病のため、失明してしまう。



愛犬ジャックは死ぬ。

ローラは悲しみを乗りこえて成長していくんだ。

一家はまた、西へ旅立つ。はたして、新しい土地を手に入れることができるのか……。

うーん、このころの人々は苦勞の連続だったんだね。えっ、信じられないって？

アメリカのイメージに合わないって？

みんなはアメリカっていうと何を思いつくかな。

スベースシャトル、ニューヨーク、

マクドナルド、スーパーマン……。

でも、アメリカも昔は草ぼうぼうだったんだよ。

自由と独立を信じて、人々は自分の力で土地を切り開いていったんだ。

「大きな森の小さな家」にあふれているこのフロンティア精神。

これは、今でもアメリカ人の心のふるさとであり、理想なんだよ。

君たちも、タフにね！

・ このシリーズの本は、福音館書店、岩波少年文庫、講談社文庫などから出ています。



和語・漢語・外来語

言葉

学習した日 / 月 日

月 日本語の言葉にはどんな種類があるかの学習だね。三つの種類を確かめながらやってみよう。

トレーニング1

① 次の説明に合う言葉を、後から選んで書きなさい。

(1) もともと古くから、日本で使われてきた言葉

(2) 昔、中国から日本に入ってきた言葉

(3) 主に、西洋の国から入ってきた言葉

言葉

外来語 漢語 和語

「和語」は、聞いただけで意味がわかる言葉。
「漢語」は、聞いただけでは意味がわからないことがあるね。



② 次の和語の読みを書きなさい。

(1) 山里 (2) 雪国 (3) 港町

訓読みするのが「和語」だね。



③ 次の漢語の読みを書きなさい。

(1) 音楽 (2) 完成 (3) 活動

「漢語」って、音読みするんだね。



4

次の言葉の中から外来語を見つけて、かたかなで書きなさい。

みかん ばなな こつぶ ちゃわん えんぴつ
 びあの いす はがき みしん でんわ

四つあるね。

5

□の中の言葉を和語と漢語とに分けて書きなさい。

単調 手足 栄光 遠足
 青空 学校 花火 朝顔

和語

漢語

6

次の言葉を、ア「和語と漢語」、イ「和語と外来語」、ウ「漢語と外来語」の組み合わせに分け、記号を入れなさい。(順序が逆の場合もあります。)

(9)	(7)	(5)	(3)	(1)
ペン先	新芽	テニス部	古新聞	赤インキ
_____	_____	_____	_____	_____
(10)	(8)	(6)	(4)	(2)
町医者	雨具	消しゴム	リズム感	金メダル
_____	_____	_____	_____	_____

必ず、声に出して読んで確かめよう。

さあ、「和語」「漢語」「外来語」の区別はついたかな。
 次は、これらを組み合わせた言葉をトレーニングしてみよう。



7

次の言葉は、和語と漢語の両方を表しています。それぞれ
の読みを書きなさい。

(1) 水車

漢語 () 和語 ()

(2) 父母

漢語 () 和語 ()

(3) 春風

漢語 () 和語 ()

和語は訓読み、
漢語は音読み
だよ。

8

次の漢字を使って二つずつ熟語を作りなさい。

(1)

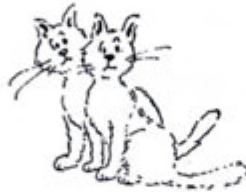
海

() ()
() ()

(2)

生

() ()
() ()



9

同じような意味の言葉が、和語・漢語・外来語にあるこ
とがあります。次の中から、同じ意味の言葉を選んで書き
入れ、表を完成させなさい。

和語……宿屋 やどや 手洗い てあら おとし 山登り
漢語……一昨年 便所 登山 旅館 試験
外来語……トイレット テスト ホテル

	和語	漢語	外来語
山登り	(1)		
(2)	旅館	(3)	
(4)			トイレット
おとし	(6)	(5)	
(7)			(8)

あと一ページ、がんばれ！
外来語では、フレ―！ フレ―！
かな？



言葉には、それぞれにいわれがあるよ。言葉のいわれを知ると、国語の学習がさらに楽しくなるよ。

トレーニング2

10

(1) (4)のいわれに当てはまる言葉を、□の中から選んで書きなさい。

(1) かえるの手に似ている

(2) くまの手に似ている

① 「て」、「で」のつく言葉には、てのひらの形からきているものがいくつもあるよ。

(3) 行ったり帰ったりしない

② うった玉はもどってこないよね。

(4) 三時に食べる間食

③ 「午後三時」を昔の時間で表しているよ。

おかし やつで かえで 鉄ぼう玉
おやつ かしわで かんしゃく玉 くまで

11

(1) 辞典を引いて、次の言葉のいわれを調べて書きなさい。
こより

(2) こまねずみ

(3) めざし

(4) 赤字

④ それぞれの言葉を二つに分けて、意味を調べてみましょう。

きちんと答えを合わせて
言葉の学習を
終わりにしよう。





実力をつけよう

実力アップテスト①②

学習した日 / 月 日

本物のテストのつもりで、しんけんにやってみよう。

テスト1

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

それは①ごくたわいもない夢だった。ぼくが戸外こがいの地面にうずくまって泣いている。右手に小さなシャベルをにぎっていた。なぜ泣いているのかは、分からない。泣いているぼくは、まだ幼ちち園えんにも通っていない幼児なのだ。②あたりがうす暗いのは日暮ひぐれが近いせいかもしれない。

そのとき、せの高いお兄さんがやってきて、ぼくの名を呼んだ。

「ひとし……。」

ぼくは思わずお兄さんにすがりつく。

「おうちに帰ろう。」

お兄さんは、そう言ってぼくをおぶってくれた。③お

兄さんのせなかにはあたたかい。

どこからか歌声が聞こえてきた。

① — (ア) (エ) のひらがなを漢字に、漢字をひらがなになさい。

(ウ)	(ア)
—	り
—	(イ)
(エ)	—
えて	めた

② — ①「ごくたわいもない夢だった。」について、次の問いに答えなさい。

(1) その夢の内容を説明している部分を『 』で囲みなさい。

(2) その夢は、どんな感じのする夢でしたか。それが分かる二つの文の、初めの五字をそれぞれ書きぬきなさい。

夢はそこでぶつとりとどぎれた。目が(ハ)覚めたとき、目じりになみだの筋が残っていた。ねむっているうちに泣いてしまったのだろう。でも決していやな夢じゃなかった。なにか心の中がほんのりあたたまるような、そんな夢だった。

朝食のとき、母さんにきいてみた。

「あのね、ぼくが二つか三つのときって、どんなだった。」

「あなたが二、三才のころ……。日野浦に住んでたわ。」

どうってきかれても、には言えないわねえ。」

「家の(ハ)にかいから海が見えたな。」

父さんが口を開いた。

「ここに来て十年か。ひとしが(ハ)覚えてないのは無理ないな。」

父さんは、首をのばして外を見た。窓の外には、ここ

と同じようなアパートが、③視界の続く限り並んでいた。

(那須正幹「まぼろしの町」)



③

——②「お兄さんのせなかにはあたたかい。」という表現から、「ぼく」のどのような気持ちを読み取れますか。次の中から選び、記号に○をつけなさい。

ア いじめられ、くやしさがあふれる気持ち。

イ 楽しく明るい気持ち。

ウ ほっとして、あまえるような気持ち。

④

に当てはまる言葉を次の中から選び、記号に○をつけなさい。

ア ひとくち イ わるくち ウ はやくち

⑤

——③「視界の続く限り並んでいた。」を、次のように言いかえると、「」には、どんな言葉が入りますか。

の中から選び、書き入れなさい。

限り並んでいた。

聞こえる 分かる 見える 感じる

テスト 2

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

春

春は、線路からやってくる。

線路の雪は、どこよりも早く解けて、青草がちらほら
きばや
 その間に、気早にも黄色い花がさいたりする。

——どこかに、春がたくさんあるんだ。だれかが、それをゆかもつ列車に乗つけて、遠くへ運んでいくんだ。だけど、汽車つてゆれるから、この辺で春が少しこぼれて落ちちゃって、だから線路には、ほかより早く春が来るんだ。

加代は、そう信じている。

夏の夜

お父さんと、お母さんと、夜店に行く。

いつもたったら、ばんご飯を食べてしまえば、あとはねるばかりなのに、今夜はこれから外へ出るのだから、めずらしくて、うれしくて、たまらない。

(中略)

遠くの田で、かえるが鳴いている。(1)夜風がほおに冷

① (ア) (エ) のひらがなを漢字に、漢字をひらがなに
なさい。

$\frac{(ウ)}{\text{小い}_{\frac{こ}{3}}}$ $\frac{(ア)}{\quad}$
 $\frac{(エ)}{\quad}$ $\frac{(イ)}{\quad}$

② 「春」の文中から、冬を表すものを一つ、春を表すものを二つ、それぞれ□に合う字数で書きぬきなさい。

冬を表すもの

11

春を表すもの

③ 線路がほかの場所よりも早く春らしくなるのはなぜだと、加代は考えていますか。簡潔に書きなさい。

4 「夏の夜」の中での加代の気持ちを最もよく表す言葉を一つ選び、書きぬきなさい。

たい。①ほたるが、ずっと飛ぶ。

近所のおじさんやおばさんが、うちわかた手に門口へ
すずみに出ていて、お父さんやお母さんと、笑いながら
あいさつをかわす。加代にもひと言声をかけてくれるの
が、またうれしい。②空には、白じろと天の川。

③小路から表通りへ出ると、どの家でも、明々と電灯
をつけて、④家族みんなではんご飯のちやぶ台を囲んで
いる。青やゆみどりのすだれごしに、まるでげん灯を見
ているようだ。笑い声や話し声、のきには風りんもちり
ちり鳴る。

——わたしも幸せだけど、あの人たちもみんな、幸せ
そうだな。

おどるようにはずんで歩きながら、加代は、そのこと
がいちばんうれしい。

(杉みき子「加代の四季」)

⑤

——①「ほたるが、ずっと飛ぶ。」——②「空には、
白じろと天の川。」は、いかにも夏らしい光景ですが、夏
らしい音も出てきます。何の音ですか。

の音

⑥

——③「家族みんなではんご飯のちやぶ台を囲んでい
る」人たちのことを、加代はどのように思っていますか。
本文中から五字で書きぬきなさい。



4月のまとめ／赤い実のはじけた（名木田恵子）

テスト①②

学校でテストをするときと同じ気持ちで取り組みよう。

テスト1

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「変なの。確かにパチンと、音がしたと思ったのに――」。

その音を哲夫^{てつお}に聞かれたような気がして、話のどちゅうだったのに、綾子^{あやこ}は、にげるように帰ってきてしまったのだ。

去年の夏休み。母の切き^きようりに遊びに行ったとき、いとこの千代^{ちよ}が言っていた。

「急に胸^{むね}が苦しくなってきた、とたん、胸の中で、

①赤い実がはじけたの。」

あの夏の夜、千代とふとんにもぐりこんで、いろいろな話をした。そのとき千代は、はずかしそうに、一夫^{かずお}君のことを言いだしたのだ。同じクラスの一夫君の横顔に夕日が当たったしゅん間、千代の胸の中で、赤い実がはじけたというのだ。

①

――(ア)ウのひらがなを漢字に、漢字をひらがなにしなさい。

(ア)

(イ)

(ウ)

れた

(各2点、計6点)

②

――①「赤い実がはじけたの。」とありますが、千代の胸の中で赤い実がはじけたのは、どんなときでしたか。

(10点)

③

――②「そう言って千代は、まぶしいようなえがおをうかべた。」とありますが、綾子には、千代のことがどのようなに思えたのですか。本文中の言葉を使って答えなさい。

(10点)

「不思議なのよ。一夫君とは小学校もいっしょでしよう。同じクラスになったことはなかったけど、それまで毎日のように顔を合わせていたのに、そんなことなかった。それが、とつ然——。」

それから千代は、一秒だって一夫のことをわすれたことはないの、と言った。

中学一年になった千代は、一年前の夏会ったときに比べて、話しかけにくいほど大人っぽくなっていた。

「綾ちゃんも、いつか赤い実がはじけるわよ。そしたら教えてね、地しんみしたいにとつ然来るんだから。」

② そう言って千代は、まぶしいようなえがおをうかべた。

その夜の千代との会話を、綾子はときどき思い出した。

「③赤い実がはじけるって、どんな感じかしら。とつ然来るって、わたしにはいつかな——。」

想像すると、なんだかどきどきしてくる。

千代が言ったのは、本当だった。それは、まったくとつ然——。急に胸が苦しくなって——。

パチン。

4

——③「赤い実がはじけるって、どんな感じかしら。」とありますが、赤い実とは、どのようにはじけるのですか。次の中から当てはまるものを三つ選び、記号に○をつけなさい。
(全部できて12点)

ア 少しずつ

イ 全く突然

ウ パチンと

エ あまい気持ちになった後で

オ 胸が苦しくなってそれから

カ はずかしそうに

5

「赤い実がはじける」とは、どういうことを表した言葉ですか。次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

(12点)

ア 友情がこわれたこと。

イ あこがれの気持ち之急にさめたこと。

ウ 異性の相手に引かれる気持ちになったこと。

終わったら、
答えを合わせよう。



次は、「テスト2」にちょう戦だ。あわてずに、落ち着いてやろう！

綾子は、魚屋へ買い物に行くよ。
でも、その魚屋というのは、
同じクラスの哲夫の家なんだ。



テスト2

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「今の季節、やっぱりさしみはタイだね。マグロも新せんだよ。」

哲夫の口調は生き生きしている。お母さんから預かったお金で買えそうなので、綾子はタイとマグロをたのんだ。

「毎度ありい。」

哲夫って、笑うとやえ歯がのぞくんだ。

「経木で包むのも、このへんじゃあ、うちの店くらいだよ。今は、みんなスーパーだろ。魚をパックするなんて、かわいそうだよ。」

哲夫はきびきびとさしみを包んでいく。

①

哲夫が綾子に魚を売っている様子として最もふさわしいものを次の中から選び、記号に○をつけなさい。

(8点)

ア れいぎ正しく、親切でていねいな様子。

イ はきはきとしていせいのいい様子。

ウ ゆったりと落ち着いた様子。

②

「①「くわしいのね。」と言ったときの綾子の気持ち
を次のようにまとめました。」「」に当てはまる言葉を

から選び、書き入れなさい。

(10点)

哲夫が魚のことをいろいろ

いるの

で、

し、たのもしく思っている。

感謝

知って

聞いて

感心

③

「②「綾子は初めて哲夫を正面から見た。」とありますが、そのとき、哲夫はどんな様子でしたか。それが分かる部分を本文中から書きぬきなさい。

(10点)

「アジのたたき、おまけな。食べてくれよ。」

哲夫はじまんそうに、アジのたたきも包んでくれた。

「今はサヨリもうまいぞ。もう少ししたらカツオだな。」

「①くわしいのね。」

魚を受け取り、代金をはらいながら、②綾子は初めて哲夫を正面から見た。

「おれ、魚好きだからな。」

哲夫の目はきらきら光っている。

「食っちゃうなんてかわいそうな気もするけど、どうせなら、おれはこんなうまいんだぞって、魚にいはらせてやれるような、日本一の魚屋になりたいんだ。」

そのときだ。③綾子の胸が急に苦しくなってきた、特大のバチンが来たのは――。

④綾子は胸元をおさえると、さよならも言わずにかけだしていた。

答え合わせを
忘れないで
おくれニャー



④

――③「綾子の胸が急に苦しくなってきた、特大のバチンが来た」というのは、分かりやすいかどうか。ヘ ヴ 内の言葉を全部使って、まとめなさい。
(12点)

へ 哲夫 綾子 引かれ始めた ヴ

⑤

――④「綾子は胸元をおさえると、さよならも言わずにかけだしていた。」とありますが、綾子は、どんな気持ちからそうしたのですか。次の中から選び、記号に○をつけなさい。
(10点)

- ア うれしい気持ち
- イ はずかしい気持ち
- ウ かなしい気持ち
- エ 腹^{はら}立たしい気持ち



4月に学習した漢字

漢字のテスト

時間

25分

得点

46

①

——線を引いた言葉を漢字で書きなさい。必要なものには送りがなもつけなさい。(各2点×9＝計18点)

(1) せんめんじょで歯をみがく。

(2) 窓^{まど}ガラスに顔がうつっている。

(3) 布が真っ赤にそまる。

(4) 父のきょうりは秋田県です。

(5) むねがどきどきする。

(6) 時間のたつのをわすれる。

(7) はでなすがたの歌手だ。

--	--	--	--	--	--	--

②

❶ できなかったものは、「漢字練習シート①」で練習しよう。

(8) きよねんの夏、海に行った。

(9) 会社の用でしゅっちょうする。

--	--

——線を引いた言葉を漢字で書きなさい。必要なものには送りがなもつけなさい。(各2点×9＝計18点)

(1) よくあさ、旅行に出発する。

(2) 事件が思わぬしんてんをした。

(3) いせいを意識する。

(4) 詩をろうどくする。

--	--	--	--

(5) ピアノをえんそうする。

(6) 重々しいくちようで話す先生。

(7) お客の荷物をあずかる。

(8) 長年のがんぼうがなかった。

(9) 美しいきよくをピアノでひく。

❶ できなかったものは、「漢字練習シート②」で練習しよう。

③

——線を引いた言葉を漢字で書きなさい。必要なものには送りがなもつけなさい。
(各2点×5＝計10点)

(1) そうじのぶんたんを決める。

(2) 平家物語の絵入りのまきもの。

(3) いやな問題をしよりする。

(4) 雨のため川の水がました。

(5) 冬の寒さにそなえる。

❷ できなかったものは、「漢字練習シート③」で練習しよう。

問題の後に示してあるように、
①は、「漢字練習シート①」に
②は、「漢字練習シート②」に
③は、「漢字練習シート③」に
それぞれ対応している。
できなかったものは、そのシートで
必ず復習しておくこと！



こた
答 え

第1日の答え

トレーニング1

- ① ぼく 石井君 伸ちゃん

注意 「ぼくたち」「みんな」とありますから、全部で何人

登場するのは分かりませんが、「ぼく」以外に具体的に名前が出ているのは、この二人だけです。

答える順番がちがっていてもかまいません。

- ② ① そうか……石井君

- ② おい、……石井君

- ③ あるよ……ぼく

- ④ よし、……石井君

注意 物語のなかには、だれが言ったことかはっきりと書

かれていない場合があります。その場合は、話の流れから、だれが言ったことなのかを読み取りましょう。

- ③ 水の中にしずんでいた。

注意 「四個とも」ということを付け加えて答えてもよい

でしょう。

- ④ うき巣

トレーニング2

- ① わたし 太郎 水車場の主人

(十五、六歳の) 少年

注意 答えの順番がちがっていてもかまいません。

- ② ① (五、六百メートルさきの) 川へ

- ② フナつりに(フナをつりに)

- ③ 「初め」なにごとだろう

「終わり」めておりました

- ④ 水車場の主人(と) 十五、六歳の少年

注意 答える順番が逆でもかまいません。

- ⑤ 「——線を引く一文」

そのすきに、ネコはそこのかたをふみ台にして、水車小屋のひさしにとびあがり、そのままがたをけしてしまいました。



第2日の答え

読みのトレーニング

① (1) せんめんじょ (2) うつ(って)

(3) そ(まった) (4) きょうり (5) むね

(6) わす(れた) (7) すがた (8) きよねん

(9) しゅっちょう

読みの発展トレーニング

② (1) ア すいせん イ せんれん

(2) ア こきょう イ きょうど

(3) ア うし(ろ) すがた イ すがたみ

③ (1) ア しきよ イ さ ウ かこ

(2) ア せんりがん イ さと

(3) ア かくちょう イ は

書きのトレーニング

④ (1) 洗面所 (2) 映 (3) 染 (4) 郷里

(5) 胸 (6) 忘 (7) 姿 (8) 去年

(9) 出張

書きの発展トレーニング

⑤ (1) 水洗 (2) 映って (3) 染まって

(4) 故郷 (5) 胸 (6) 忘れて (7) 後ろ姿

(8) 死去 (9) 千里眼 (10) 拡張

⑥

(1) ア 先 イ 洗
(2) ア 写 イ 映 イ 移
(3) ア 帳 イ 張

【注意】 (2) 「うつる」と読む漢字の使い分けは次のよう

になります。

ア 写る……写真、テレビ、映画などの映像が

現れる。下の文字や絵が、紙などを通

してすけて見える。

【例】 写真に写る。

下の絵が写って見える。

イ 映る……鏡、水、障子、スクリーンなどに

像が現れる。

【例】 鏡に顔が映る。

かべにかげが映る。

ウ 移る……動いて別のところまで行く。

【例】 引越して別の場所に移る。

第3日の答え

読みのトレーニング

①

- | | | |
|-------------|----------|----------|
| (1) よくあき | (2) しんてん | (3) いせい |
| (4) ろうどく | (5) えんそう | (6) くちよう |
| (7) あず(かった) | (8) がんぼう | (9) きよく |

読みの発展トレーニング

②

- | | |
|------------|---------|
| (1) ア よくじつ | イ よくしゅう |
| (2) ア はってん | イ てんかい |
| (3) ア さい | イ いじょう |

- | | |
|------------|--------|
| (4) ア めいろう | イ ろうほう |
|------------|--------|

- | | |
|------------|--------|
| (5) ア がっそう | イ どくそう |
|------------|--------|

③

- | | | |
|--------------|------------|--------|
| (1) ア いくどうおん | イ くち | ウ じんこう |
| (2) ア あず(ける) | イ よきん | |
| (3) ア ねんがん | イ (お)ねが(い) | |

- | | |
|-------------|---------|
| (4) ア きよくせん | イ ま(がる) |
|-------------|---------|

書きのトレーニング

④

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| (1) 翌朝 | (2) 進展 | (3) 異性 | (4) 朗読 |
| (5) 演奏 | (6) 口調 | (7) 預 | (8) 願望 |
| (9) 曲 | | | |

書きの発展トレーニング

⑤

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| (1) 翌日 | (2) 発展 | (3) 差異 | (4) 明朗 |
|--------|--------|--------|--------|

⑥

- | | | |
|-------|--------|----------|
| (1) ア | (8) 念願 | (5) 合奏 |
| 由 | | |
| イ | (9) 曲線 | (6) 異口同音 |
| 曲 | | |
| | | (7) 預けて |



第4日の答え

言葉のトレーニング

① (1) 合わせ (2) にげる (3) 引きずつ

(4) 苦しくなつ

② (1) ア (2) イ (3) イ

③ (1) きびきび (2) 生き生き (3) すいすい

(4) きらきら

④ (1) イ (2) ア

【注意】(2)は、あがつてはつきり言葉が出てこないから「口

ごもつて」いるのです。話す内容に言いにくいことが

あるではありません。

⑤ (1) 引っこん (2) のぞく (3) はらつ

(4) おさえ (5) ふき飛ばさ

⑥ イ

第5日の答え

トレーニング1

① 同じクラスの一夫君の横顔に夕日が当たったしゅん間

【注意】本文をよく読んで、書き落としないようにぬき出

しましょう。

② ウ

【注意】千代は一夫とはそれまで毎日のように顔を合わせ

ていたのに何ともなかったのです。それが一夫のこと

を忘れられなくなったのは、千代の方に変化があった

のです。千代は一夫が好きになってしまったのです

ね。それは、千代が「はずかしそうに」話しているこ

とからも分かります。なお、この気持ちの変化は、大

切なところなので、綾子が体験するところでもくわし

く考えてみましょう。

③ 「――線を引く文」

○中学一年になった千代は、一年前の夏会ったときに比

べて、話しかけにくいほど大人っぽくなっていた。

○そうやって千代は、まぶしいようなえがおをうかべた。

【注意】設問文は、「千代はどんなふうに映っているか」をた

ずねているのですから、千代のせりふ以外の部分から

さがします。「大人っぽく」「まぶしいようなえがお」

という言葉で分かりますね。

④ イ・ウ

注意 綾子の気持ちが直接書かれている「赤い実がはじけるって、どんな感じかしら。とつ然来るって、わたしにはいつかな——。」や、③の千代に対する印象などから分かりますね。

トレーニング2

① 「——線を引く部分」

それは、全くとつ然——。急に胸が苦しくなつて——。

パチン。

思わず飛び上がるほど大きな音を立てて、胸の中で何かのはじけたのだ。

注意 「トレーニング」の本文の千代の言葉「綾ちゃん

も、いつか赤い実がはじけるわよ。そしたら教えてね、地しんみたいにとつ然来るんだから。」の内容が、本当だったのです。つまり、本文中で、綾子に赤い実がはじけたことが書かれている部分をさがせばよいのです。

② 「順に」哲夫 綾子 苦手

注意 もちろん、「哲夫」「綾子」は、「岡本哲夫」「米田綾子」でも正解です。

本文を読むと、すぐ次の部分に「おかもしろっお岡本哲夫は、綾子の

苦手なタイプの男の子だった」とありますね。苦手なタイプだったから、好きになるなんて予想もしていなかったのです。

③ ○声が大きくて、なんだかこわい。

○（哲夫君は）おっかない。

注意 「最初の印象」「先入観」という言葉をヒントにして、さがしましょう。

④ ア・エ

注意 綾子が思っていたイメージとちよつとちがって、「こわい」というより、「ざつくばらんで人なつっこい」人がらのようですね。

第6日の答え

トレーニング1

- ① 「哲」の「てつ」と「てつだつて」の「てつ」が同じで
だじやれになっているところ。

【注意】 「哲」と「てつだつて」が同じ、ということが分かるように説明しましょう。

- ② 哲夫って、笑うとやえ齒がのぞくんだ。

【注意】 話すような調子で書かれている部分をさがしましょう。この一文は、綾子の気持ちの変化を表しているので大切なところです。哲夫に対する親しみが感じられますね。

- ③ ア

【注意】 「経木」は今では和菓子屋さんで見かけるくらいで、ほとんどがプラスチックなどになっています。昔ながらの経木を使うところに、魚を大切に作る魚屋としてのほこりが感じられますね。

- ④ 綾子は初めて哲夫を正面から見た

【注意】 綾子の動作を表している部分をまずさがします。「正面から見た」という表現から、哲夫のことをはっきりと見ていることが分かります。それまでの綾子は哲夫のことを苦手だと思っ

のよい面に気づいてきて、このとき初めてはつきり
と見ることができたのですね。

- ⑤ 生き生き きびきび きらきら

【注意】 様子を表す言葉です。このような言葉に注意して、哲夫の行動や人がらを読み取りましょう。

トレーニング2

- ① イ

【注意】 綾子は哲夫に心が引かれていたから、その哲夫が作ったおさしみがほめられたときに思わず声が大きくなったのです。意識してわざと声を大きくしたのはありません。

- ② うれしいような、はずかしいような気持ち。

【注意】 お母さんに哲夫のことを「一人前」とほめられたのはうれしいけど、異性として意識しているからはずかしい。そんな気持ちが知らず知らずわいてきて、「耳の辺りがかゆくなってきた」のですね。

- ③ 海の中を泳ぐ魚のように、すいすいと綾子を追いついて走っていく哲夫――。

【注意】 「海の中を泳ぐ魚のように」の部分で、哲夫が走る様子のたとえになっています。

- ④ 綾子も、同級生の哲夫と話しているとき、急に胸が苦しくなってきた、胸の中で赤い実がはじけた、ということ。

注意

第5日でやったトレーニングを参考にしてください。千代は「綾ちゃんも、いつか赤い実がはじけるわよ。そしたら教えてね」と、去年の夏休みに綾子に言ったのでしたね。それにこたえる手紙です。同じような内容であれば、ちがう表現でも正解です。

⑤
ウ

注意

異性に心が引かれる、異性を好きになる、そういうときの心のときめきを「赤い実のはじけた」という言い方で表現しているのですね。

第7日の答え

読みのトレーニング

- ① (1) ぶんたん (2) ま(き)もの (3) しより
(4) ま(して) (5) そな(える)

読みの発展トレーニング

- ② (1) ア たんとう イ たんにん
(2) ア ま(く) イ まき

- (3) ア たいしょ イ しょぶん

- ③ (1) ア ま(す) イ ふ(える) ウ ぞうか
(2) ア そな(わる) イ じゅんぴ

書きのトレーニング

- ④ (1) 分担 (2) 巻・物 (3) 処理 (4) 増

(5) 備

書きの発展トレーニング

- ⑤ (1) 担当 (2) 巻いた (3) 対処 (4) 増す
(5) 備わって



第8日の答え

トレーニング

① 1 1 「行め」 6 「行め」

2 7 「行め」 13 「行め」

3 14 「行め」 15 「行め」

② イ

注意 この作文の題からも分かるように、「新しい油絵の具」のことが書きたいことを中心ですね。

③ 「——線を引く部分」

入学式的时候は、とってもきん張したつけ。

注意 入学式的时候の気持ちのことは、組み立てメモには入っていませんね。

第9日の答え

トレーニング1

① (1) 和語 (2) 漢語 (3) 外来語

注意 「和」は、日本のことをいいます。「漢」は、中国の昔の国名で、今も中国に関係したことににつけて使われる言葉です。

② (1) やまざと (2) ゆきぐに (3) みなとまち

③ (1) おんがく (2) かんせい (3) かつどう

④ バナナ コップ ピアノ ミシン

注意 中国以外の外国から入ってきた言葉を探します。
蜜柑、茶碗、鉛筆、椅子、電話はちよつとむずかしい
字ですが、漢語です。はがきは和語です。

⑤ 「和語」 手足 青空 花火 朝顔

「漢語」 単調 栄光 遠足 学校

⑥ (1) イ (2) ウ (3) ア (4) ウ (5) ウ

(6) イ (7) ア (8) ア (9) イ (10) ア

⑦ (1) 「和語」 みずぐるま 「漢語」 すいしゃ

(2) 「和語」 ちははは 「漢語」 ふは

(3) 「和語」 はるかぜ 「漢語」 しゅんぷう

⑧ (1) 海水 海辺 海岸 北海 深海 など

(2) 先生 生活 学生 一生 生水 など

⑨

- (1) 登山 (2) 宿屋 (3) ホテル (4) 手洗い
(5) 便所 (6) 一昨年 (7) 試験 (8) テスト

注意 「トイレット」は、「トイレ」のほうがよく使われますね。

トレーニング 2

⑩

- (1) かえて (2) くまで (3) 鉄ぼう玉
(4) おやつ

注意 (4)「おやつ」は、昔の八つ時^{どき}という時刻が、今の午後二時から四時までの間に当たることから生まれました。

「やつで」は、葉が八つに分かれているものが多い、てのひらの形に似ています。「かしわで」は、神様をおがむときに、両手を打ち鳴らすこと。「かしわ」は木の名まえです。「かんしゃく玉」は、地面に投げつけると大きな音をたてる玉。「かんしゃく」のすぐおこる性質からきています。

⑪

- (1)「かみより」の「かみ」が変化したもの。細長く切った紙をよって細いひものようにしたことから。

- (2) 辺りを、こまのようにぐるぐる回る習性があることから。

注意 よく働く人を「こまねずみのようだ。」などと言います。

- (3) いわしなどの目に、わらやくしなどをさして通し、

数ひきずつまとめてほしたことから。

注意 そのひものことを「めざし」と言います。

- (4) 帳簿に不足額を赤字で書くことから。

注意 意味は、収入より支出が多いことです。



第10日の答え

テスト1

① (ア) 辺(り) (イ) き(めた)

(ウ) 二階 (エ) おぼ(えて)

② (1) 「『 』で囲む部分」

ぼくが戸外の地面に……歌声が聞こえてきた。

(2) でも決して なにか心の

③ ウ

④ ア

⑤ 見える

注意 「視界」とは、「目で見ることのできるはんい」のことです。

テスト2

① (ア) 貨物 (イ) よかぜ (ウ) (小)じ (エ) 緑

② 「冬を表すもの」雪

「春を表すもの」青草・黄色い花

③ どこかにある春が、汽車で遠くへ運ばれていくときに、

少しこぼれて落ちるから。

注意 「どこかに、春が」から、「だから線路には、」の前

までに書いてあることを、うまくまとめます。

「春」「汽車(貨物列車)で運ばれる」「こぼれて落ち

る」ということがらをふくんで、意味の通る文が書けていけばよいでしょう。

④ うれしい

注意 「うれしくて、たまらない。」「またうれしい。」「いちばんうれしい。」と、「うれしい」が何度もくり返さ

れていることから考えます。

⑤ 風りん(の音)

注意 「笑い声や話し声」は、特に夏らしい音とはいえま

せん。

⑥ 幸せそうだ

注意 「あの人たちもみんな、幸せそうだな。」と加代は思

っています。

第11日の答え

テスト1

① (ア) 郷里 (イ) むね (ウ) 忘(れた)

② 同じクラスの一夫君の横顔に夕日が当たったしゅん間。

③ 話しかけにくいほど大人っぽく思えた。

【注意】 「大人っぽく思えた」ということが書いてあれば、

正解です。

④ イ・ウ・オ

⑤ ウ

【注意】

ウのようなことを、「赤い実がはじける」というたとえを使って表現しているのです。「異性の相手を好きになること」といってもよいでしょう。

綾子あやこは、哲夫てつおのことを異性として意識し始めたのですね。

テスト2

① イ

【注意】

哲夫の生き生きとした口調や、「きびきびと」「じまんそうに」「さしみを包んでいくということから考えましょう。

② (順に) 知って 感心

③ 哲夫の目はきらきら光っている。

④ 哲夫に、綾子の気持ちが強引かれ始めたということ。

【注意】

「特大のパチン」というところから、綾子の気持ちの強さが分かります。

へ ヽ内の言葉を全部使って、同じ内容が書かれていれば、表現がちがっていても正解です。

⑤ イ



第12日の答え

①

(1) 洗面所

(2) 映って

(3) 染まる

(4) 郷里

(5) 胸

(6) 忘れる

(7) 姿

(8) 去年

(9) 出張

②

(1) 翌朝

(2) 進展

(3) 異性

(4) 朗読

(5) 演奏

(6) 口調

(7) 預かる

(8) 願望

③

(1) 分担

(2) 巻き物

(3) 処理

(9) 曲

(5) 備える

(4) 増した



めも